

2008 1



Architecture and Society

建築と社会

特集/私の空間作法—会員作品—

日本建築協会

日本建築協会企画・販売
出版図書一覧

1917年3月に創設された日本建築協会（当時・関西建築協会）は、すでに昭和初期には大阪近辺で住宅博覧会や建築講演会を開く一方、当時は入手しにくかった建築の情報を図書の出版という形で会員に提供していた。

＊

日本建築協会創立70周年記念出版	
住宅近代化への歩みと日本建築協会	1988年
A 4判 企画・発行：日本建築協会 本体価格1,500円	
日本建築協会創立75周年記念出版	
工高生デザインコンクール入選作品集	1992年
A 4判 企画・発行：日本建築協会 本体価格2,000円	
昭和生まれ 関西の建築家50	1987年
A 4判 企画・発行：日本建築協会 本体価格1,500円	
日本建築協会建築クラブ朝食会300回記念講演記録集	
講演記録集 話のはなし	1997年
B 6判 5分冊 企画：日本建築協会建築クラブ 頒布価格2,500円（税・送料込み）	
民間（旧四会）連合協定	
工事請負契約約款	（平成19年6月改訂）
工事請負契約書・仲裁合意書・契約書使用上の留意事項	
頒布単位：2部1単位とする	
価 格：1部700円（税込）送料 実費	
日本建築協会事務局（06-6946-6981）で頒布	

以後、創立周年記念事業として、その時代の動きをとらえて単行本を出版している。

50周年、60周年、70周年、そして80周年に、図書の出版が企画され、現在も継続して発行・販売されている出版物は、以下のとおり。

＊

購入希望者は、（社）日本建築協会事務局（TEL.06—6946—6981、FAX06—6946—6984）まで。

日本建築協会創立60周年記念事業「建築技術選書」姉妹篇・四六判2色刷イラスト入	
〈プロのノウハウ〉シリーズ	
企画：日本建築協会 発行：学芸出版社 本体価格¥1,600～¥2,500	
躯体工事監理のチェックポイント100	須賀好富
空調設備のトラブル50	建築設備トラブル研究会
衛生設備のトラブル50	建築設備トラブル研究会
鉄筋工事・本音の現場学	荒川治徳
建築基準法の難解条文を読みこなすコツ	高木任之
建築と音のトラブル	中川清ほか
木造住宅監理の話	山田 修
環境と共生する建築25のキーワード	大西正宣
鉄骨工事の現場学	石田満裔
仕上工事監理のチェックポイント	日建設計監理業務研究会
木造住宅のしくみ	在来工法の基本と応用 浅野平八・東 敏博
コンクリート工事のチェックポイント100	〈新版〉 加賀秀治
インテリアコーディネート100ポイント	町田ひろ子監修／松本 茂・村元俊子著
木づくりの常識非常識	上村 武
建築トラブルにみる常識非常識	荒川治徳

日本建築協会創立70周年記念事業・B5判	
選書特装版	
企画・日本建築協会 発行・学芸出版社 本体価格¥2,800～¥3,800	
水にまつわるトラブルの事例・解決策	建築デザインのための構造計画
〈建築篇〉 「建築漏水」編集委員会	須賀好富
水にまつわるトラブルの事例・解決策	入門・建築積算
〈設備篇〉 「設備漏水」編集委員会	生島道春
建物の汚れ・トラブル事例と解決策	建物の結露・トラブル事例と解決策
「建物の汚れ」編集委員会	「建物の結露」編集委員会

2008年を迎えて

社団法人 日本建築協会 会長 佐野吉彦

新年明けましておめでとうございます。

2008年が、会員の皆様にとって素晴らしい1年であることをお祈りいたします。

昨年は日本建築協会が創立90年を迎えた年でした。3月30日には、記念式典とともに「日本建築協会賞」の表彰をおこなうなど、さらなる活動の継続、そして100周年に向けて確かな歩みを進めてゆくことを誓いました。2007年は建築以外の団体と共同でデザインアイデアコンペを企画・運営しましたが、こうした試みに積極的に取り組むことをこれからの10年のテーマにしたいと考えております。日常的には、各地支部の創意ある活動と連携し、志を共有する他の建築団体と積極的な協調を図りながら、地域社会に寄与できる成果を生み出してまいります。さらに、「青年技術者表彰」「工高生デザインコンクール」、活動の中核にある「建築と社会」誌の発行などの息の長い取り組みを通じ、有為な人材の育成に努めることを活動の柱としてゆきます。

さて、過去90年を通じ、われわれ協会の大きな任務であったのは、この社会の将来像を具体的に描くことでした。日本建築協会設立の大正6年、すなわち協会の前身・関西建築協会が設立された年、初代会長・片岡安は檄文「同窓建築技術家に告ぐ」を配布して、建築にかかわる法律の制定を求め、また日本各地における建築団体活動の必要性を訴えました。その年に大阪市都市改良計画調査会委員となった片岡の努力により、翌年、東京市区改正条例（明治21年制定）が大阪、京都ほかの都市に準用される動きになりました。そうしてその翌年、都市計画法と市街地建築物法が公布されたのです。

その基盤の上に昭和12年、御堂筋が開通し、近代大阪の都市景観がかたちを現しました。今振り返ると、戦後復興も高度成長も今日の都市再編も、片岡が持ち合わせたはるか先を展望する洞察力と法制度を実現するための実行力、片岡とその後継者が抱いた熱い魂が切り拓いた成果であったと言えるでしょう。そう考えると、現代の都市に育ったわれわれも、都市景観や都市のシステム・法律や制度がいかにあるべきかについて、より積極的に提言してゆく必要があるのではないのでしょうか。流動化する現代ではありますが、建築だけでなく現代都市に起こる問題に対して建築の専門家の能動的な姿勢が求められると考えます。

そのためにも専門家どうしが日常的に忌憚のない議論を交わし、切磋琢磨する場として、これからの建築を展望するための健全な基盤として、日本建築協会の活動をさらに充実させてゆきたいと考えております。

会員の皆様の本年的ご多幸をお祈りいたします。

編集委員会

これからの10年を見据えた 社会活動を4月から始めたい

編集委員長
設楽 貞樹

昨年は、確認申請手続き等の混乱に伴う住宅着工件数の減少など、われわれ建築界に身を置く者にとって、考えるところの多い一年でありましたし、改めて日本建築協会が掲げる「建築を通じての社会貢献」を思い起こすいい機会でもありました。新しく迎えた年は、この理念が持つ大きく深い意味を反芻することにより、われわれが社会に対して大きな責任を担っていることを再認識する年としたいものです。

さて、日本建築協会は昨年、創立90周年を迎えました。この90周年は節目であると同時に、来るべき100周年につながる大事な10年の始まりの年と位置づけ、「建築と社会」昨年4月号・90周年記念特集号でも「この10年、これからの10年」という特集を組みました。そして編集委

員会の中に「10年委員会」というサブ委員会を設置し、これからの10年間、協会がその理念に沿う形で「社会的になんらかの意義のある活動を継続的にやっていくこと」を目標に、活動内容についての企画立案を開始しました。予定では、4月の新年度から具体的活動を始める所存です。特に昨今、若い世代の会員が少なくなっていますので、今後の10年、協会活動を支えていくべき若い世代に訴求する活動を中心に立案していきたいと考えております。会員の皆様からこんな活動をしたらどうかといったアイデアがあれば協会事務局まで、メール、FAX、お手紙いずれでもお知らせ願えれば、委員会での議論の参考にさせていただきますので、さまざまご提案をお寄せいただきたく存じます。

出版委員会

しんどい時代やからこそ、 人材が！

出版委員長
上原 正行

医療や教育現場、加工食品分野、マンション、エレベーターに至るまで「安全・安心」が問われ、政治不信が高まっている。このさなか、若者の理工系離れ、特に工学系離れが進んできた。まもなく、大学進学希望者全入の時代を迎えようとして、世界に通じる確たる「学士力」を求める声も高い。一方、若者は「労のみ多く、益少ない、割の合わない仕事」を嫌う。特に建築分野では「耐震強度偽装」事件以来、法規改正、確認申請・認可の遅延、発注者の不満、施工会社の倒産…負の状況は想像以上だ。建築各分野

での「しんどい」状況を、彼らはどう眺めているのだろうか？

ところで、産婦人科、小児科の医師不足が言われて久しいが、地方大学の学生が、離島研修で島民からの感謝を受け、医師への道を再確認するニュースを見た。彼らの眼差しの輝きを忘れられない。

おなじ「しんどい」道でも、「しんどさの報われる瞬間」は、建築の世界でも多い。「しんどい道のり」の中でも「輝き」の部分、その仕事のすばらしさを、若者に伝えよう。

教育委員会

継続事業の推進と展開を…

教育委員長
山形 政昭

私たちの委員会担当の「工高生デザインコンクール」(1955年～)と「建築工事実務講習会」(1957年～)はそれぞれ半世紀近く続く本会の事業となっております。それはただ継続されているだけでなく、前者のコンクールでは、年ごとの設計課題のなかに時代の社会的テーマが見える興味深い蓄積であること、そして応募作品と受賞者の喜びの声に接すると、建築が本来的にもっている夢を関係者で確認できる事業です。その成果の発表が、新年号の誌面に与えられていることも有意義に感じます。また後者の

講習会は、業界第一線に立たれている講師による実践的な内容で、参加者には好評を得ており、本会の特色とされる事業です。こうした継続事業のため歴代委員及び関係者の熱心な取り組みには、改めて敬意を表しますとともに、引き続き力強い推進をお願いしております。

また、新年を迎えて、昨今の建築の動向と私たちに求められる高度な専門性に対応するアイデアに富んだ教育事業が展開できないかと考えております。皆様のご提案、ご意見などを委員または事務局へお寄せ下さい。

事業委員会

事業の企画のマンネリ打破

事業委員長
瀬戸川 葆

毎年、見学会と講演会を企画するにあたり、新しい企画が出来ないか検討するものの、新しい発想はなかなか出てまいりません。京阪神地域の新築建物の見学会、茶室見学会、「話題建築を聞く」シリーズまた、「これからの建築と社会」シリーズの講演会があり、その都度、検討して取り組んできましたが、事業委員からの情報源だけでは、限定されます。

会員や会誌からの情報、他団体の催し情報、事業委員の所属企業が設計や施工に関与した新築建物情報を収集するとともに、会員からの要望を反映したいと思っています。

改正建築基準法の施行に伴い、建築業界を揺るがしている建築確認の遅れに対し、問題解決策を求めることができないか、講演会を企画できないか、検討できればと思っています。

建材委員会

工夫のある工法や材料の登場

建材委員長
松原 徹雄

昨年末、建築材料の性能試験において、試験体を不正に偽装し受検して、大臣認定を取得していたという悪質な事件がありました。消費者の信頼を裏切るこのような行為は、建材にかかわる多くの健全な企業等にとって、きわめて迷惑なことであります。今後このようなことが起こらないようにするためにはどうすればいいか、それぞれの立場で、考える必要があります。さて、昨年は従来の建材という概念にとらわれ

ず、金具と軽鉄と強化せっこうボードを組み合わせ梁に固定する耐火被覆工法や、揮発性有機化合物を使わない特殊水性ポリエチレン系防水防食剤を使用したコンクリートの腐食防止剤など、製品に工夫が認められ、その優位性で今後広く使われるであろう建材を紹介しました。今年も活発な議論を通じて、出来るだけ多くの建材を紹介していきたいと考えています。自薦他薦よろしく願います。

薬袋公明氏 ご逝去

日本建築協会名誉顧問・(株)日建設計元社長・会長の薬袋公明氏は、平成19年11月24日に逝去されました。

武庫川女子大学 甲子園会館 (旧甲子園ホテル) 見学会

〔大阪府建築士会（2単位）及び
JIA（2単位）のCPD対象〕

●建築概要

所在地 兵庫県西宮市戸崎町1-13
所有者 学校法人武庫川学院
設計 遠藤新
施工 株式会社大林組（竣工当時）
敷地面積 35,626㎡
建築面積 2,248㎡
延床面積 6,172㎡
構造規模 RC造、4F、B1F、P1
竣工 1930年（昭和5年）4月
建物用途 （竣工当時）ホテル
（現在）教育施設

甲子園会館は、昭和5年に竣工した旧甲子園ホテルを、昭和40年、武庫川学院が譲り受け教育施設として再生したものである。

中央に玄関・フロント・メインロビーを置き、左右に大きくダイニングルームとバンケットホールとを張り出し、その両翼の上階には、独立性を保ちながら集約された客室群がクラスター状に配置されている。設計は、フランク・ロイド・ライト（米1869～1959）の愛弟子、遠藤新（1889～1951）が手掛けており、ライトの影響が色濃く見受けられる建築である。当時、東京の帝国ホテルの支配人で、ホテル界の第一人者といわれた林愛作（1873～1951）の理想に基づいて計画されたもので、「東の帝国ホテル、西の甲子園ホテル」と並び称され、皇族、政財界人、文化人などの社交場として賑わった。



幾度かの改修工事を経て、現在は、武庫川女子大学の建築学科、オープンカレッジ（生涯学習）、各種イベントなど、多彩に活用されている。

（甲子園会館パンフレットより引用）

日時 2008年3月1日（土）
14:00～16:00
（13:30より受付開始）

概要説明：大喜多孝哉／(株)大林組

集合 現地 1階ラウンジ

定員 40名（申込先着順）

参加費 会員1,500円

一般2,500円

学生は各半額

申込方法 FAXまたはEメールで、

①催し名「甲子園会館」

②氏名

③会員・一般の種別

④職場名または学校名

⑤参加証送付先
（住所、郵便番号）

⑥連絡先電話番号

⑦CPDを申請される方は、
申請先の団体名
を明記の上、下記へお申込み下さい。

申込先 社日本建築協会
編集事業課
大阪市中央区大手前1-7-31
OMMビル7階（〒540-6591）
TEL.06-6946-6981
FAX.06-6946-6984
E-mail:jigyoka@aaj.or.jp

第7回 読者と選ぶ 「建築と社会」賞のための アンケート募集

2007年1～12月号
「建築と社会」誌から

2007年12月号P36に、2007年の「建築と社会」総目録を掲載しました。ご参照下さい。

「建築と社会」という本誌の趣旨にふさわしい社会性・環境などに配慮した有意義な建築作品や建築にかかわる論文・記事などを顕彰する。選考にあたっては、会員の声を反映し、広く開かれた賞とする。

■選考対象

本誌「建築と社会」2007年1月号～12月号に掲載された作品及び個別の論文・記事などを対象とする。

・「作品作風」欄掲載の建築作品

・「本会支部作品頁及びそれに準ずる作品頁」掲載の建築作品

・「特集頁」掲載の論文・記事—ただし特集頁全体は選考対象としない—

・「シリーズ頁」の記事（研究の風景、gallery、法令コーナー、構造の頁、設備の頁、新建材の頁）

■投票締め切り日

2008年2月29日（金）

■賞の部門

・作品部門 1～4点

・論文・記事の部門 1～4点

■選考方法

会員読者による第一次選考を経て、選考委員会による第二次選考にて決定する。第7回選考委員は交渉中。

■発表と表彰

作品部門は建築主、設計者、施工者の中の代表者に賞状（記念楯）を贈呈する。論文・記事部門は執筆者（複数の場合は代表者）に賞状（記念楯）を贈呈する。

「建築と社会」賞 読者アンケート

送付先

(社)日本建築協会
FAX06-6946-6984
e-mail:ken-sha@
aaj.or.jp

「建築と社会」では読者の方々のご意見を参考に、充実した誌面づくりをめざしております。2007年1～12月号で、とくによいと思われた作品、記事、その他についてのご意見をFAXまたはe-mailでご送付下さい。このご意見は、読者と選ぶ第7回「建築と社会」賞の1次選考に反映されます。

お名前 _____

勤務先 _____

☐ とくによいと思われた作品とその理由

☐ とくによいと思われた記事とその理由

☐ 本誌についてのご意見や、取り上げてほしい内容などがありましたらご記入下さい。

日本建築協会 80年史
1917-1996

「日本建築協会80年史1917-1996」

増刷頒布中 頒価 3,000円

1999年7月に発行した「日本建築協会80年史1917-1996」は、各方面から好評をいただいておりますが、このたび、皆様の強いご要望により、増刷・頒布することにいたしました。大正6年3月30日に関西建築協会として誕生した日本建築協会の80年の歴史を、様々な事業や委員会活動を通じて、また、本会設立者の片岡安、武田五一以降現在までの会員たちの社会活動を通して知ることができる記念誌として、A4判・240頁にまとめています。

とくに、協会草創期の大正・昭和初期の片岡安ら協会のメンバーと当時の大阪市長・関 一との交流を物語る一文は、大阪の都市計画史、あるいは関西の建築人物誌ともなっています。本会の歴史を知るだけでなく、建築を通して、それぞれの時代の雰囲気を感じることができる大変貴重な資料となるものです。

購入ご希望のかたは、下記要領でお申し込み下さい。

*

申込先 社団法人 日本建築協会
〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31
大阪マーチャント・ビル7階B室
TEL 06-6946-6981 FAX 06-6946-6984

頒価 1部3,000円(税・送料込み)

※増刷部数には限りがございますので、お早めにお申し込み下さい。

「日本建築協会80年史」

A4判・240頁・並製本

●日本建築協会の沿革／委員会活動／「建築と社会」の変遷／大正時代から現在までの本会主催の博覧会・展覧会・講演会／よろず相談住宅展／青年建築家・青年技術者顕彰／工高生デザインコンクール入選者etc.

●日本建築協会創立者と会を支えた38人のプロフィール(片岡 安・設楽貞雄・武田五一・池田 實・波江悌夫・竹腰健造・尾崎久助・東畑謙三・塚本猛次・福田朝生・佐野正一・葛野壯一郎・横濱 勉・松本禹象・宗 兵蔵・園部文雄・日高 胖・野村一郎・古宇田 實・松室重光・松井貴太郎・安井武雄・中澤誠一郎・坂 静雄・今林彦太郎・井上新二・松本儀八・池田宮彦・錢高輝之・中西六郎・大林芳郎・鴻池藤一・伊東五郎・竹中鎌一・鷲尾健三・松村雄吉・横尾義貴・足立 孝)

●座談会「戦中から戦後初期の協会活動」一尾亀清四郎・大林芳郎・小西 岬・佐野正一・横尾義貴・三品哲夫の6氏による終戦前後の協会活動の証言一

*

■執筆ワーキンググループ

坂本勝比古／安達英俊／石田潤一郎／植松清志／梅宮弘光／桐谷邦夫／酒井一光／橋寺知子／山形政昭／吉田高子／和田康由

■80年史編集委員会

長谷部朗郎／安達英俊／近藤達夫／谷淳之介／十倉 毅／原見昌志／和田康由／吉田悦二



「日本建築協会の遺産と功績」(坂本勝比古)より



「草創期の人々」より片岡安の項



5



所在地 大阪市北区曽根崎2丁目3-5
敷地面積 2,032.96㎡
建築面積 1,433.64㎡
延べ面積 23,235.12㎡
構造規模 S造、B1F・17F・P2
工期 2006年1月～2007年11月
最寄駅 JR大阪駅他
撮影 勝田尚哉

設計・監理■
竹中工務店

施工■
竹中・奥村・銭高・西松・日本建設共同事業体

梅新第一生命ビルディング

御堂筋の北の基点であり、国道1号線と国道2号線の交点でもある、梅田新道交差点に面して計画された賃貸オフィスである。“お初天神”で知られる露天神社の参道を中心に東西に分かれていた2つの敷地を、「敷地整序型土地区画整理事業」の手法を活用して一敷地とし、新しい建築の中央部に、幅13m高さ10mの参道空間を内包することで、この土地がもつ歴史を継承するとともに、高度利用を図った。

環境配慮型オフィスビルとして、日射熱負荷の大きい東西面に超薄型のダブルスキンカーテンウォールを設置し、太陽光発電やクールチューブ等を活用して、CASBEE OSAKA 2004の事務所ビルで初のSクラスとなった。

通称“梅新”といわれる梅田新道交差点に対峙した、おおらかな曲面を構成したガラスファサードは、透明ガラスのみではなく、セラミックプリントを施すことによって透過性に変化をつけ、ガラス自体が持っている色や素材感を引き出している。インテリアは、街に開かれたオープンコアエリアウトと、共用廊下の間仕切り壁をガラスとし、共用部をあたかも“我が家”のように専用利用できるハウスコアとすることで、今までの賃貸オフィスにない開放的な執務空間を提供している。

(有田 博・中村圭祐／竹中工務店)





設計・監理■
東西建築サービス

施工■
東西建築サービス

淀屋橋STビル

設計・工事・メンテナンスを業とする会社の創業50周年を機に、隣接する地権者との共同事業による本社ビルの建て替えが計画された。基準フロアはワンルームのオフィススペースを最大限に確保する平面計画と、外観上は一棟の建物として間口の大きな構えの立面計画となるよう心掛けた。

外装は床までの全面ガラス開口部に加えて縦ルーバーと庇を設けることで、十分な自然採光を得ながら日射の影響を半減させる効果をねらった。また、同時に通りを近づくにつれ表情が変化する面白さと、夜間は室内照明によるルーバーの反射が特徴的な全体印象を得ることになった。

高さの制限の中で全体の床面積を最大限に得るため3.35mという小さい階高としたため、オフィスは直天井とし、同時に仕上がない「素」の空間を演出している。

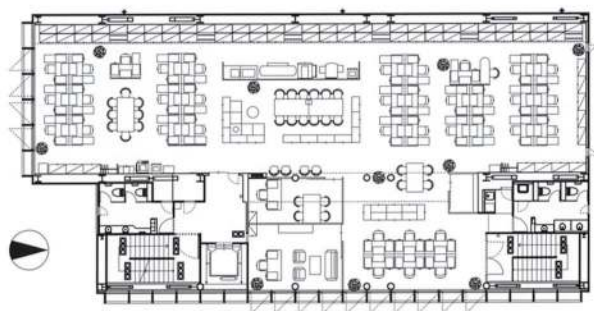
空調計画はOAフロアと西側外壁面をエアフローとした床リターンシステムにより温度分布の均質化、効率化を図っている。

また、館内移動に階段の積極利用を促すため、オープン階段を採用しEVもシースルー化する事で視覚的に館内の一体感を高める効果を期待している。

屋上は環境負荷の低減に寄与するために緑化を施し、スペースの有効利用を図るため、休憩スペースとしての利用を計画した。屋内外の一体利用を考慮し、床材は人工木材（リサイクル商品）のウッドデッキを連続して用い、フルオープンサッシを導入している。

また、屋外機置場の壁は日除けを兼ねた緑化ウォールを採用している。

(和田公一/東西建築サービス)



5階平面図 1/400

所在地 —— 大阪市中央区高麗橋4-7

敷地面積 —— 495㎡

建築面積 —— 408㎡

延床面積 —— 2,108㎡

構造規模 —— S造 6F

工期 —— 2006年12月～2007年8月

最寄り駅 —— 大阪市営地下鉄淀屋橋駅

撮影 —— SS大阪 田中俊史

左頁 南東外観
夕景/事務室

右頁 屋上夕景/事務室レイアウト/玄関ホール
女子便所/階段





■はじめに

私たちが研究活動している東京工業大学・すずかけ台キャンパスは、東急田園都市線・すずかけ台駅を下車して、徒歩5分ほどにあります。本キャンパスは、大学院生以上の学生の割合が高く、また周りが緑に囲まれている環境から、どこことなく落ち着いた雰囲気があります。

田中研究室は、建築材料、特に防水にかかわる構法、材料の開発および耐久性にかかわる評価方法について研究をしています。また、田中研が所属する応用セラミックス研究所は、建築とセラミックスが融合したユニークな研究者の集団で、今までの研究領域にとらわれない研究をすることができ、その研究を支援する技術スタッフも充実しており、共同で利用できる装置類等も整備されています。また、当研究所は全国で先駆けて、全国の研究者との共同利用機関として産学官の連携を強力に推進しています。

■研究活動

建築物の耐久性には水が強く関与しています。また、我が国は世界でも有数の多雨国のため特に問題となり、水に起因する建築への不具合・問題等について取り組む必要があります。田中研では「防水」をキーワードとして、以下のような幅広い研究を行っています。今まで、「サステナブルビルディングとその材料に関する研究」、「建設材料の劣化機構の解明とその予測に関する研究」、「建設材料リサイクルシステムに関する研究」、「伝統的屋根構法の調査と新しい防水システムの提案」、「強風時における防水層の耐風性能と安全性評価」、

「材料の促進耐候性評価試験方法の開発」、「有機系皮膜材料によるコンクリートの耐久性向上技術」、「緑化屋根防水システムの雨水排水遅延効果」、「防水層の耐根性評価に関する研究」、「歴史的レンガ造建造物の劣化現象と補修工法の開発」、「高速飛翔体に対する各種建築材料の耐衝撃性に関する研究」について行ってきました。

■田中研での最近の研究事例

いくつか代表的な研究を紹介します。

①強風時における防水層の耐風性能と安全性評価

屋根材の軽量化・施工率の向上を図るため、最近、防水層をアンカー等で点状に機械的に固定する工法が増えています。これら工法は、今までの防水層を全面的に接着させる工法に比べて、下地の影響を受け難く、既存防水層の種類や状態をそれほど考慮する必要がないため、補修工事や改修工事を中心に施工面積が急速に拡大しています。しかし、2004年の台風18号、22号により、屋根材が破損する被害を及ぼしました。その中でも、この工法による防水層の被害も報告されました。

このため、研究室では、実際に宮古島にて試験棟を建設し、その屋根面に防水層を施工して、台風時の防水層の挙動観察や物性の変化について実測を行っています。また、実大防水層試験体を用いた風洞試験や疲労試験を実施しており、安全な防水工法を評価・提示するための試験方法の提案や、耐風設計法への取組みを行なっています。



写真1 防水層耐風性研究のために建設した宮古島実測建物



写真2 2007年台風15号で防水層が吸い上げられた状況

②高速飛翔体に対する各種建築材料の耐衝撃性に関する研究

建築物の災害に関して、多くの要因が挙げられます。その中でも、偶発的に生じる爆発災害や、近年増加傾向にある台風や竜巻などの自然災害により、飛散物（飛翔体）が発生し、建築物に被害を与えた事例が報告されています。このような飛散物から、建築物やそこで生活する人間を守ることは重要な課題となります。これらを考慮すると、構造部材はもとより、建築物の外壁として使われる、ファサード材料の耐衝撃性を把握しておくことが必要になります。特に、事故が発生する可能性が高い地域あるいは社会的に重要な施設の防御設計は当然のことながら、一般住宅に使用される建築材料の耐衝撃性を評価し、未然に損傷・破壊を防ぐ設計・構法も今後求められてくると考えられます。

現在、田中研では、飛翔体の速度をキーワードとして、日常の生活で生じる低い速度から音速を超えた高速までの影響を考慮した外壁部材の衝突実験を実施しています。

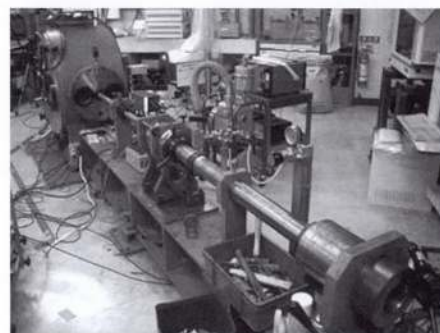


写真3 二段式軽ガス銃

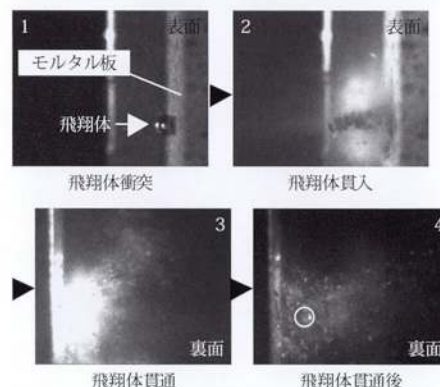


写真4 鋼球がモルタル板に衝突した際の状況

③防水層の耐根性評価に関する研究

近年、ヒートアイランド現象や都市型洪水の緩和、あるいは安らぎの空間の提供な

どを目的に、屋上を緑化するケースが急速に増えています。しかし、もともと屋上も含め屋根は植栽を前提として作られておらず、現に、植物の地下茎や根が防水層を突き破る事故が増えてきており、屋上からの漏水の原因となっています。そのようなことから、植物の地下茎や根の侵入に対して安全な防水システムの確立が求められています。

田中研では、植物の地下茎や根がどの程度の力で防水層に侵入・貫通しようとするかを実験的に明らかにし、さらに、測定された侵入・貫通力を基に、根を模擬した針による防水層の貫通・侵入試験を行い、防水層の耐根性の定量的な評価方法について検討を行っています。

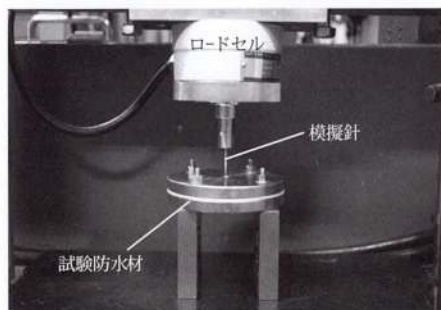
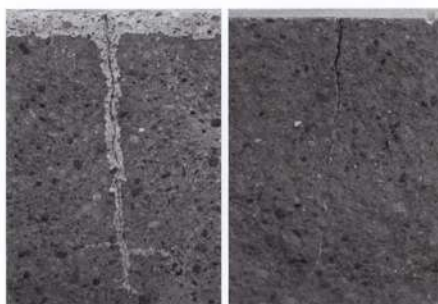


写真5 根の地下系を模した
模擬針による防水層貫通試験

④有機系皮膜材料によるコンクリートの耐久性向上技術

近年、建築物への長寿命化が求められていることから、それに対する一つの手段として、塗膜系材料の炭酸ガスの遮断性能を利用し、下地コンクリートの炭酸화를防止する方法が期待されています。現在、これらの材料の炭酸化抑止効果に関するデータも多く紹介されています。しかし、鉄筋コンクリート建物では、ひび割れの発生を完全になくす事は難しいとされており、ひび割れ部分でも炭酸化抑制効果が保証されなければ、真の意味でこれら材料が有効であることにはなりません。これら材料はコンクリートひび割れ直上で引っ張られると、局部的に皮膜が薄くなり、炭酸ガスの遮断性能の低下が懸念されるからです。

そのため研究室では、塗膜系材料の中で比較的厚塗りの期待される塗膜系防水層を対象として、ひび割れの発生したコンクリートに対し、どの程度の炭酸化抑止効果が期待されるのかを検討しています。



皮膜層のない場合
：中性化が進行
皮膜層がある場合
：中性化の抑制効果あり

写真6 促進中性化試験結果

⑤材料の促進耐候性評価試験方法の開発

屋外環境に曝されている建築用シーリング材は、使用期間中のさまざまな劣化要因に対して耐えることが要求されます。それは、紫外線、気温、降雨などのウェザリングと、壁部材等の熱伸縮に起因するムーブメントとに大別されます。これら材料の劣化を評価する方法として、屋外環境下で試験体を劣化させる屋外暴露試験と、室内で劣化因子の強度を上げて行う促進劣化試験があります。

現在、研究室では気候環境が異なる試験場にて、防水材料における屋外暴露試験を行っており、促進劣化試験との相関性、ならびに汎用性のある試験体と標準的な試験方法について提案を行っています。



写真7 屋外暴露試験

■研究室での生活

田中研の活動は、教員・大学院生も含め毎朝8時30分からの英語の勉強会から始まります。この勉強会は研究室発足時から続けており、教材として建築材料・構法に係わる海外の書籍を取り上げ、今まで数十冊もの書籍を学生と読破してきました。今では、この勉強会は教員と学生が必ず1日1回は顔を合わせる大事な交流の場となっています。

研究室の行事は、4月の新入生歓迎会から始まり、夏旅行、ぶどう狩り、そして忘年会、新年会等、定期的に行われます。その中でも、毎年クリスマスには研究室でケーキを作り、クリスマスパーティーを行っています。回を重ねるごとに市販されているケーキのレベルに近づいています。

また、東工大建築材料系の研究室との交流は非常に長い歴史があり、月に1回、大岡山キャンパスの材料系研究室と合同ゼミを行っています。他の研究室で行われている研究テーマと内容を知るとは、非常に刺激になります。また、夏にはバーベキュー等を行い、交流を深めています。



写真8 合同ゼミでのバーベキューにて

■最後に

田中研で長年生活して思うことは、研究にかかわらず、何事に対しても粘り強く継続していくこと、諦めないことが大事だということです。このことは意外に難しいことではありますが、田中研を卒業したOBから、研究室での生活が社会で生かされているという話を聞いたとき、そのことを実感させられます。

(文責：宮内博之)

gallery

自然を内包する住空間

矢田 朝士

ATELIER-ASH



- 1967 京都生まれ
- 1992 神戸大学工学部
環境計画学科卒業
無有建築工房勤務
- 1998 ATELIER-ASH 設立

撮影 絹巻豊写真事務所
企画 西田佳代（作品作風小委員会）



いま先進国では、モノに溢れ、文明の利器により快適に・便利に生活出来る。しかし行き過ぎた利便性の追求により人間の持つ能力が著しく退化し、感覚が麻痺していっていると感じている。日本人は、自然を恐れながらも尊び、その流れに合わせて生きてきた。そして、自然のみせる様々な姿に生きる喜びや楽しみを見い出してきたはずである。私は生きていくうえで、少しでも自然と関わりながら生活することで常に生を実感しながら生きたいと考えている。

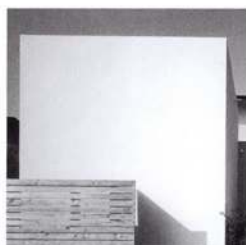
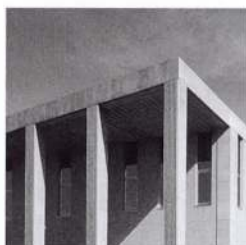
この建物は、建築内空間を立体的に2層構成としている。

【外側の建物（外家）】
外部環境（自然）を取り込む
【内側の建物（内家）】
住環境（部屋）を造る

この家では、大きく洞窟のような空間が生活空間を包み込み、その中に水周りや個室が点在している。そのことで日常生活と自然とが常に絡み合うことになる。

ある日、建主家族は雪が静かに降り積もる様子を寝ぼけ眼で眺めながら起きた。この家では、朝日の輝きを葉先に見つけ午後のまどろみの中、隣人と縁側で穏やかな時間を過ごす。友人が集まれば土間で騒ぎ、語り合い、そして家族一緒に星を眺めながら風呂で一日の疲れを癒すのである。四季折々の自然の姿を楽しみ、自然と共に生きている事をより深く感じてくれるよう期待している。





私の空間作法

日本建築協会 ■ 会員作品特集

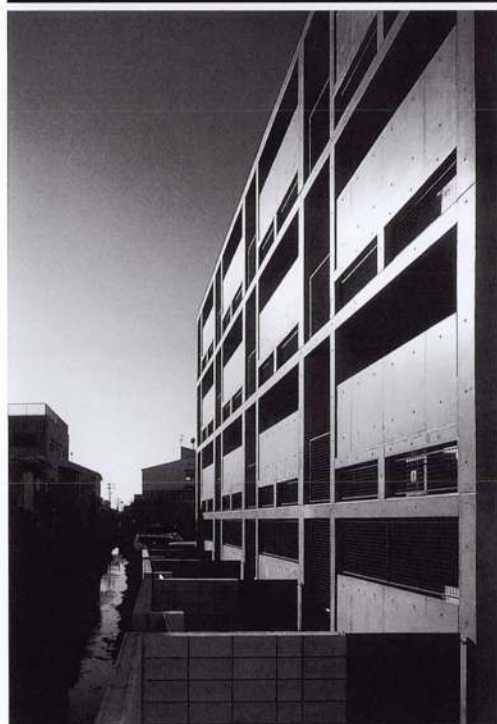
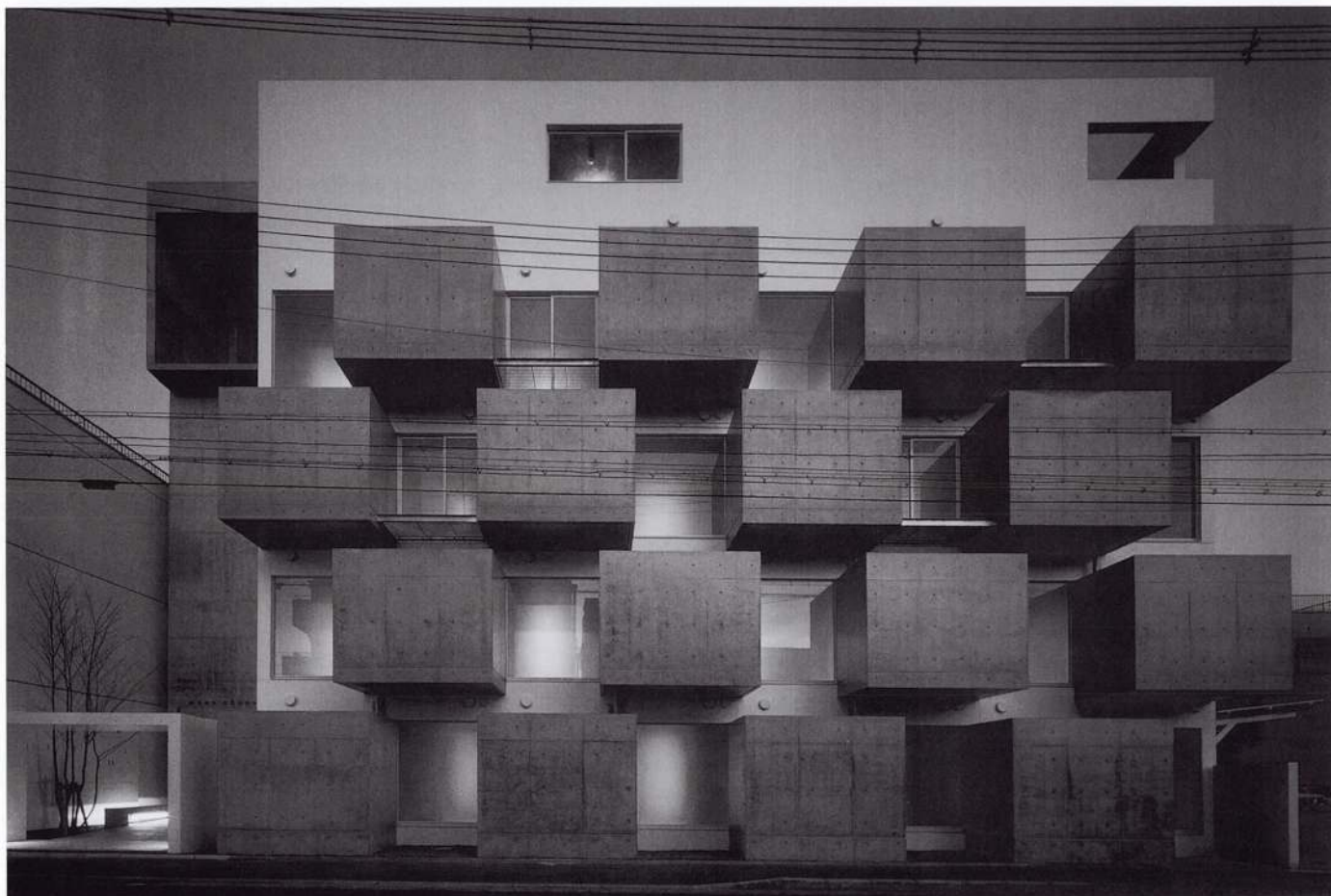


“偽”と“信”も同じ「人」を持つ字でありながら、その意味は対極にあります。昨今の建築界は、その両極の狭間で揺れ動いています。
寄せられた作品に込められた、住まい手やまちなみへの優しい眼差しと確信に満ちたものづくりの姿勢には、やはり建築の中心は“人”であり、“人”や“まち”への愛情と信頼が前提にあることを、改めて我々に気付かせてくれると同時に、一層の奮起と勇気を呼び覚ましてくれます。
会員各位の今後ますますのご活躍を期待しています。

企画編集 作品作風小委員会

ワンルームを拡張するバルコニー空間

早崎伸一＋平尾和洋 VIDZ/ヴィズ建築設計事務所



単身者向けの賃貸集合住宅の増築計画である。各住戸の面積が25㎡であること等、規模や戸数や建築コストは事業計画から導かれた。それらは与件としてクリアーしながらも、それらとは比較的無関係に成立するバルコニー空間の可能性に注目した。この計画では、ワンルームの空間と外部の間の距離の感覚を、内外の接する場所にあるバルコニーによって空間化することを意図している。その距離感の操作によって、水廻りと8畳程度の居室でできているひとり用の住みか、に、静けさと外につながる広がりをもたらしたいと思った。そしてバルコニーによってのみ個々に外部との関係性を取り結んだワンルームの集積物は、面として公共空間の輪郭をつくっている。

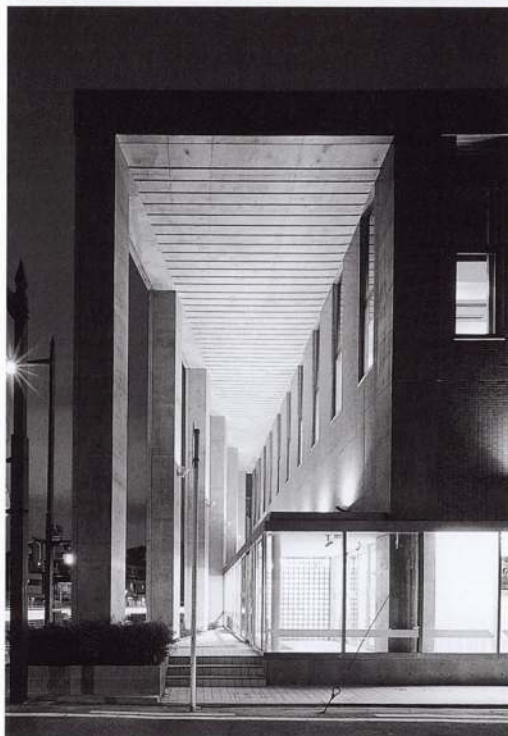
(早崎伸一＋平尾和洋)

■モノ・コモド御前増築計画

所在地 京都市
施工 公建
敷地面積 925.58㎡
建築面積 324.86㎡
延床面積 1,359.30㎡
構造規模 RC、5F
竣工 2006年12月
撮影 松村芳治

伝統的意匠の継承

和田公一 東西建築サービス



和歌山県を地盤とする金融機関の和歌山市西部の拠点となる店舗。

台形の敷地形状に整形の建物を建て、メイン道路に面した三角形の余地を高さ10mの列柱による大ピロティとし風格を持たせた。

機能性を最優先しつつも風格を合わせ持つ銀行の伝統的意匠を継承した「銀行らしい銀行」となることを意図した建物である。

意匠的には不要な装飾を排除し、コンクリート、花崗岩、タイルの3種類を現代的なシャープさで構成し、正面列柱の花崗岩は厚石に彫刻を施し、時刻により陰影に変化が生じることを意図している。

営業室の天井はストライプ状の折上げ形状とし設備機器を見せずに機能性を確保する、意匠性と低コストを兼ね備えた設計としている。

(和田公一)



■紀陽銀行堀止支店

建築主 紀陽銀行

所在地 和歌山市吹上4丁目12番1、2

施工 三友・宮井建設工事共同企業体

敷地面積 815㎡

建築面積 688㎡

延床面積 1,255㎡

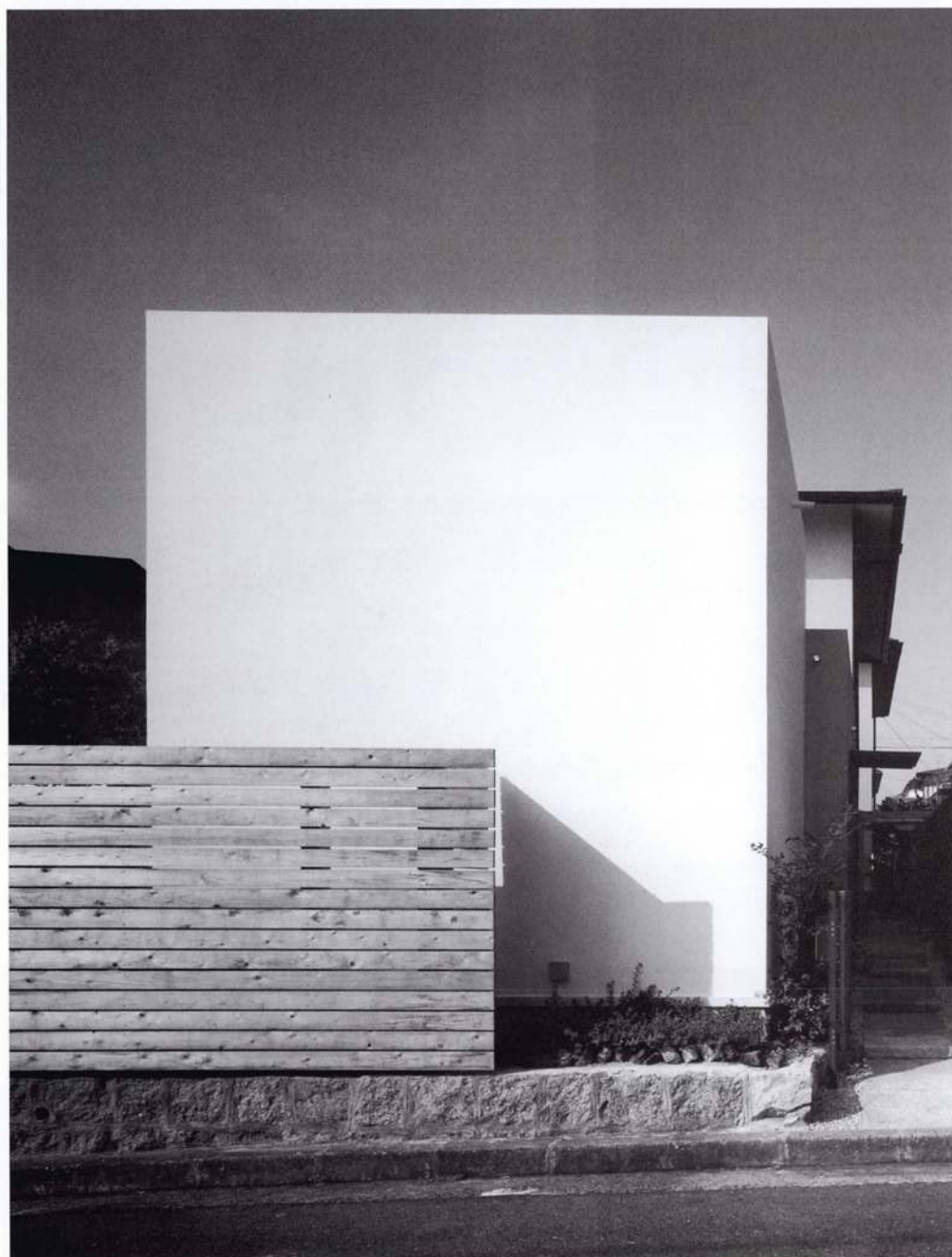
構造規模 SRC、T1

竣工 2006年1月

撮影 田中俊史（エスエス大阪）

皺

岡崎善久 岡崎善久建築設計事務所



この住宅は、大和郡山に計画されている。

既存家屋の改修と同時に、新たな機能を挿入する（おばあちゃんの部屋）。

街並みに面する白いBOXがその姿である。

近年、住宅において、居間を中心とした計画が主流である。ファーストフードや外食店を利用することが多くなり、家族が共に食事をし食卓を囲む機会が少なくなっている。その中で、居室を中心とするのではなく「食」を中心としてダイニングキッチンに住まいの計画の核に考えた。

皆がキッチンに集まり、おばあちゃんをまじえた一家団欒は、家族愛が育まれていく。日々の暮らしは、「家族の味」を伝えていくだろう。

ダイニングキッチンに立つ丸柱は、家を支える重要な柱でもある。

ダイニングとアトノエは、家のデッキへと続き、家族と地域とが接する場となっている。ガーデニングができる小さな庭は、四季の移ろいを感じるもみじとやまぼうしを植えた。

時の移ろう既存建物の皺とおばあちゃんの皺、時を越えてこの建物が、地域の道標になればと思っている。

（岡崎善久）



■大和郡山の家

所在地 奈良県大和郡山

施工 建築工事プロデュース

敷地面積 200㎡

建築面積 86.75㎡

延床面積 135.5㎡

構造規模 W、2F

竣工 2006年3月

撮影 松村芳治

丘陵地の緑をつなげる屋根のない部屋

新居照和&ヴァサントイ 新居建築研究所



敷地は丘陵地裾野につくられた分譲住宅地。画一的な住宅団地にならないよう、緑の丘陵を生かした場づくりと、日頃から近隣とのつながりがもてる住まいをつくろうとした。家業の木材卸業を継ごうとしている若い建築主が「自分たちが扱う地場の木で、美しい空間を」という希望から始まった。地場材の魅力を出した新しい住まい空間を同世代に見て欲しいという思いがあった。木材は土台の檜以外、全て杉材を使う。深い軒をもつL字形屋内広間空間と高い板塀で囲まれた板張りの中庭空間、街路に開けた中庭開口から駐車場を兼ねた前庭へと連続させる。大きなモミジを植えた中庭は、夏は木漏れ日空間をつくり、四季の移ろいを肌身に感じさせる。板塀のスリットは風が抜け、刻々と太陽が動く間接光でリズムカルな陰影をつくる。板塀を見上げると、雲が動き、竹や木々が風で揺れる丘陵地の雑木林がパノラマになって迫ってくる。深い

軒下空間によって空気と光の奥深いグラデーションをつくっている。子供たちは新しい住まいに入るなり、家中を駆けめぐるっていた。

(新居照和)

■羽ノ浦の家

所在地 徳島県阿南市羽ノ浦町

施工者 アズマ建設

建築面積 87.02㎡

延床面積 135.38㎡

構造規模 在来軸組構法

竣工 2007年4月

撮影 北田英治

人々をつつみこみ、地域にひらく

田中啓文 田中啓文総合建築研究所



大阪市が各区ごとに1館整備している、マシジウムやスタジオ等を併設した温水プール施設の一つです。あらゆる人々を自然に受け入れるおおらかで包容力のある空間を目指し、施設全体が柔らかな大屋根ですっぱりと包み込まれるイメージの、単純明快なフォルムとしています。主要な街路である西側街路に面して各階のパブリック空間を集約し、西面ファサード全体を透明度の高いカーテンウォールとして、街に開かれた分かりやすい空間構成としています。ガラスの皮膜を介して街路から見通せる壁面に、建物全体の基調であるモノトーンに対比させた暖かい色調のレンガを用いて、心なごむ懐かしく暖かいイメージを醸し出すよう意図しています。夜間は建物の輪郭が消え、もう一つのファサードとしてのレンガ壁が暖かい灯りの中で浮かび上がり、印象的な街路景観を生み出します。(田中啓文)

■ 大阪市立都島屋内プール

所在地 大阪市都島区都島本通4-12-7

敷地面積 2200㎡

建築面積 1471㎡

延床面積 3039㎡

構造規模 RC 3F B1F

写真撮影 河合止揚

まちと風景と建築

塚口明洋 塚口明洋建築研究室



西宮協立デイケアセンターは、西宮協立脳神経外科病院に隣接し、在宅の方のリハビリテーション施設としての機能に重点を置くことを目指したデイケアセンターである。

大きなワンルームで内部を見通せること、道を歩く人の視線にも活動的な内部が透けて見えることなどを意図しながらも内部のプライバシーを確保するよう計画した。

また、大きな病院建築の横でアネックスとしての存在感を表現するために、大きな壁面、1階の高さ1,500の開口とともに、中央部のスリット状の開口のみのファサードとし、通常のスケール感を無くし、力強い建築を目指した。

(塚口明洋+永田麻由子)

■西宮協立デイケアセンター

所在地 兵庫県西宮市

施工 川口建設

建築面積 253.05㎡

延床面積 716.86㎡

構造規模 S、3F

竣工 2006年11月

撮影 納村達夫

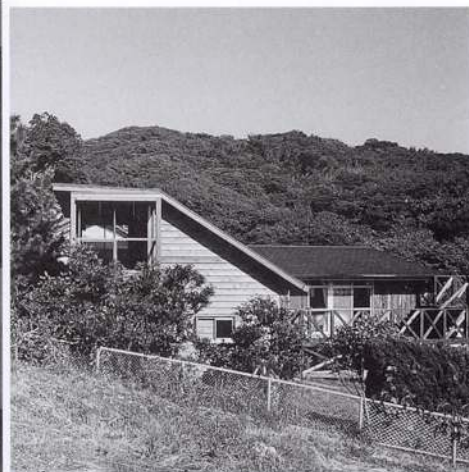
なだらかな斜面に建つ小さな家

吉村篤一＋建築環境研究所



この家は三浦半島の中ほど、小高い山のふもとの穏やかな東南斜面の敷地にある。既存の若夫婦の住まいの横に増築された母堂のための“小さな家”である。斜面方向に片流れ屋根をかけて頂部を水平に近い屋根とし、全体としては腰折れ屋根のシルエットとしている。
内部は妻側の立面がそのまま断面として表されており、居間とロフトが連続したスペースとして構造材が露出した変化のある空間となっている。

(吉村篤一・井上直大)



■秋谷の家

所在地 神奈川県横浜須賀町

施工 親松工務店

建築面積 54.45㎡

延床面積 70.36㎡

構造規模 W、2F

竣工 2005年9月

撮影 大竹静市郎

赤 白 木 コンバージョン

稲垣元宣・稲垣和江 イナガキケンチクケンキュウショ



築20年程の集合住宅 1 階部分の飲食店舗を、2DK×2 戸の賃貸住宅へコンバージョンした物件である。若い世代をターゲットに、シンプルで明るい住空間づくりをこころがけた。2つの個室のうち1室は可動間仕切でDKと一体利用できるプランとし、新婚世帯や単身者の住宅として、または仕事場としても利用できるようにした。

室内は白をベースに、シンプルな木製のキッチン、OSBの壁、ムクのフローリングなどでざっくりとした質感をもたせている。キッチン前はアクセントとなるよう、真っ赤な壁とした。

屋外は、木製ルーバーでやわらかく仕切りながら、光と風を取り入れている。飲食店の設備であふれていたファサードが、住宅らしい、やさしい表情となった。

(稲垣元宣)



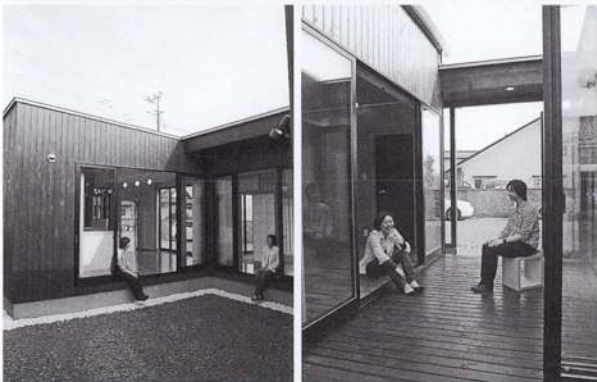
before

had project

所在地 兵庫県尼崎市
プロデュース (株)リクレア・ライフエージェント
施工 (株)建屋
改装床面積 100.6㎡
構造規模 S 1 階部分
竣工 2007年 3月
撮影 稲垣元宣

One Plus (+) One

水谷俊博+武蔵野大学水谷研究室



豊かな農村地帯にたつ住宅。その離れとして、和室、アトリエ、ダイニングキッチンなどを新たに計画するというのが条件である。既存住宅及び、周辺環境（集落）との連続性を意識しながら、各機能と既存住宅をつなげ建築全体が集落のようになり、さまざまなコミュニティスペースをつくることを大切に考えた。路地のような十字型の2つの軸線となる空間に沿って、ボックス（部屋）とヴォイド（中庭やテラスなどの屋外空間）空間を相互に足して（「プラス（+）」して）幾通りもの空間バリエーションを実現できる構成となっている。ボックス空間とヴォイド空間の間の境界を開け放ち、ボックス（内部）とヴォイド（外部）を自由に、一体的に組み合わせることにより、さまざまな使い方を楽しむことができる。また、ふたつの中庭は既存の住宅ともゆるやかにつなぎ、家族のつながりを高めていく。また各ボックスは住宅の外に対して解放できるようになっているため、外部の集落ともつながっていく。居室空間内ばか

りでなく、土間路地やロフトなどさまざまな場所で、さまざまななかたちで外部ともつながっていくことができる。早速近所の子供たちがかくれんぼをして遊び、家族の人たちは中庭でバーベキューをし、近隣の友人たちを招いて建物全体を使ってホームパーティを開いていた。ボックスが開いて、ささやかな楽しみがたくさんつなぎ、人と人とのつながりもどんどん広がっていく、そんな「プラス（+）」のある楽しい生活が生まれることを望んでいる。

（水谷俊博

+宮内朋美、加島潤子、平田 悠）

■One Plus (+) One

所在地 茨城県小美玉市羽鳥

構造設計 吉田一成構造設計室

施工 クボタ総建

建築面積 131.5㎡

延床面積 108.21㎡

構造規模 W

竣工 2007年6月

撮影 中島悠二

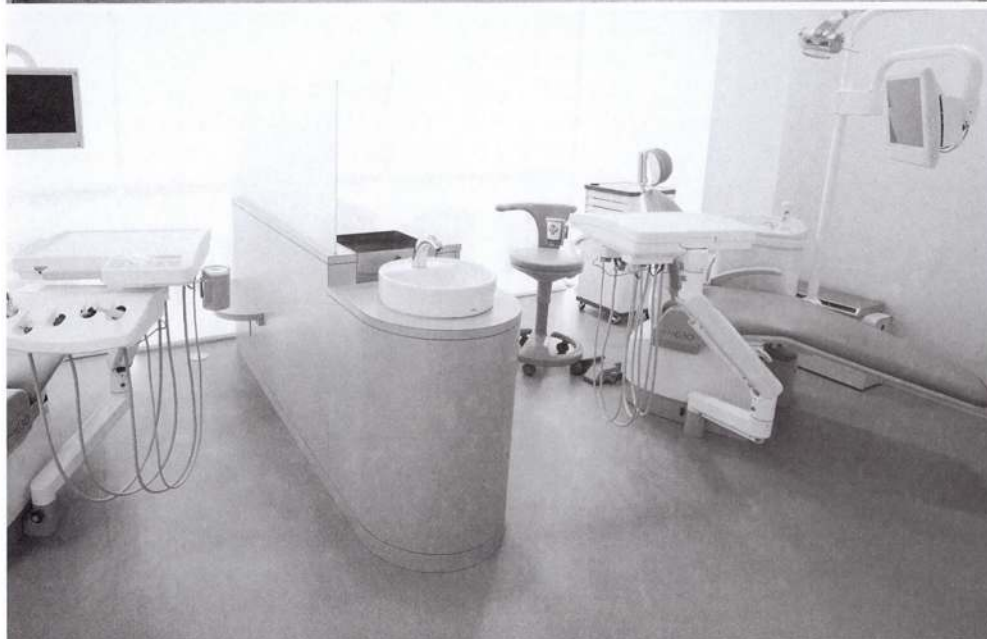
診療キャビネットをアクセントに

池上 明 エーアイ アーキテクト スタジオ



この歯科医院は大きなガラス面のあるビル内での計画であり、できるだけ明るく透明感のある診察空間を構成することを考えました。歯科医院の診察室では診療キャビネットの配置が大きなウエイトを占めますが、キャビネットを見えにくくするようレイアウトするのが一般的です。今回はドクター、スタッフ、患者さんの動線をより機能的にすることもふまえ、アイランドキッチン感覚で診療キャビネットをインテリアのアクセントとしてレイアウトしました。また、待合室はパープルのチェアとカーブした受付カウンターがアクセントとなりソフトでやさしい空間を構成しています。

(池上 明)



■幸歯会 岡田歯科医院

所在地 大阪市都島区都島北通1-4-21

施工 ブラントン

床面積 101㎡

竣工 2007年1月

沈黙の建築

岸 一 アトリエJIGSAW



当施設はコンペ最優秀賞を受賞し、寝屋川市墓地公園内に完成した、納骨・合葬施設である。

本施設は「死後と現世をつなぐ沈黙」をテーマとした建築。環境景観設計コンセプトより、全てを地中に埋めトップライトにより自然光を地中に導くよう計画されている。

また、地中廊下にはサイディングによるピクチャーウォールが長い通路に安らぎを与えている。

当施設が市民財産として後世に継承されることを期待したい。

(岸 一)

■寝屋川市納骨・合葬施設

所在地 大阪府寝屋川市池の瀬5番2号

寝屋川市公園墓地

施工 前田組

建築面積 529.56㎡

延床面積 529.56㎡

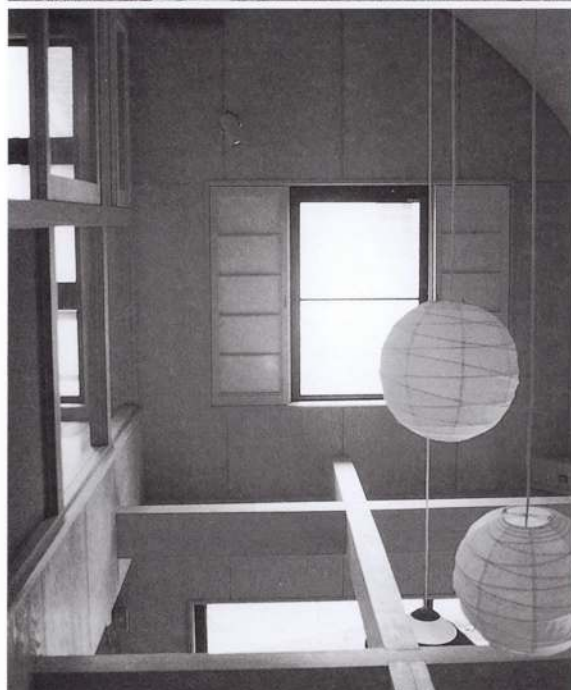
構造・規模 RC、1F

工期 2007年4月

撮影 石川時博・中村純子

風景に参加する

上谷重男 U建築企画室



ドームあり、またバルテノン神殿まがいの柱の玄関ありと、あたかも住宅展示場を写しこんだような無国籍建築に覆われたこの地を下見で訪れたとき、一体ここはどこの国かと摩訶不思議な感覚におそわれたことを覚えている。

教育もファッションも個性化が叫ばれ求められるが故に、より没個性化するように個性を求めたはずの住宅も町並みも個性を失うという現象が各地で起きている。それは平成の合併劇で吹き飛んでしまった、延々と地域蓄積をと叫び続けてきた村おこし、まちづくりの虚しさに似ている。このような新興住宅地の一画で、半円を壁に食い込ませた外観を持つこの建築が、蓄積を醸し出す町並み風景づくりの一助になればと願いながら計画を行った。

(上谷重男)

■紅の家

所在地 神戸市西区
施工 KK・井藤建設
建築面積 109.77㎡
延床面積 201.14㎡
構造規模 W、2F
竣工 2006年6月
撮影 U建築企画

修景としての美術館

中尾勝悦 中尾総合建築設計事務所



この美術館は、志摩半島北岸の伊勢志摩国立公園内に建ち、風光明媚な英虞湾を一望できる恵まれた立地に在る。志摩で生まれ育った館長にとって、文化施設の少ないこの地に美術館を建設することは、永年の懸案であった。

日中文化交流の魁として、1970年代初頭に中国から龍鳳大薫を譲り受けた。これをはじめとした翡翠などの古玉を用いた工芸品（玉宝）、人間国宝の手による陶芸、真珠を用いた宝飾品を、それぞれ三つの空間に分け展示している。

これらの展示室をつなぐロタンダ風の前室には、本真珠鮫2体を展示し、パールドームと称した。天井高9mの見上げから天光を積極的に取り入れ、鑑賞者の期待を促すよう試みた。ドーム上部の窓は、英虞湾の海光を映し出し、その外観は、八宝形とした。これにより、志摩半島の山並をモチーフにした外観にアクセントが加わり、山稜線を分断することなく、

景観の調和を図れたと感じる。

真珠寶飾品の展示室は、英虞湾に向かって開口を設け、真珠養殖と心が繋がるよう、景観を取り込んだ展示空間とした。

この美術館が、志摩半島の地域振興の発展に寄与することを、関係者一同念願している。

(中尾勝悦)

■大山玉宝美術館

所在地 三重県志摩市志摩町越賀

施工 堀崎組

敷地面積 2,994.20㎡

建築面積 570.59㎡ (19.06%)

延べ面積 570.59㎡ (17.77%)

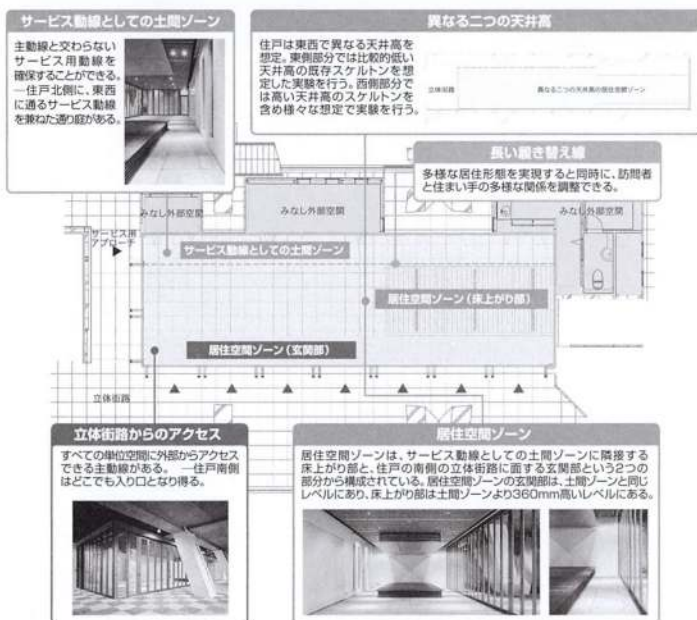
構造規模 S、1F

竣工 2007年9月

撮影 蔭川秀人(津呂写真スタジオ)

ニュートラルなガラスの空間

所 千夏 アトリエCK
荒木公樹 空間計画



(大阪ガス発行:「NEXT21」より抜粋)

※基本設計: 201住戸改修設計委員会 (委員長: 高田光雄)
実施設計: アトリエCK 所千夏+空間計画 荒木公樹
201住戸改修設計委員会: 京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻居住空間学講座、アトリエCK、空間計画、大阪ガス株

竣工から14年、居住実験第3フェーズを迎えた大阪ガス実験集合住宅NEXT21-201住戸の改修プロジェクト。少子高齢化が進み長寿社会を迎えた今、居住形態の多様化が進行し、nLDKに代表される既存の住宅計画に限界が見え始めている。加えて、ストック型へ移行した社会背景を考慮すると、新築だけでなく既存スケルトンをも活用できる、可変性の高い住宅計画が求められる。その回答のひとつとして、住戸全体をワンボックスとして捉え、可変インフィルで必要な空間を生み出す方法がある。その方法には、多様化した個人のライフスタイルをサポートする、設備機能をも内蔵した、今までにない、新しい可変インフィルの開発が必要である。NEXT21-201住戸はその実験・開発の舞台として改修された。白い壁面とガラスに囲まれ

た無個性ともいえる空間は、これから持ち込まれるあらゆる可変インフィルを受け止め、様々な住戸へと姿を変えることのできる、ニュートラルなスペースを象徴している。

■インフィルラボ Glass Cube

(大阪ガス実験集合住宅NEXT21 201住戸)

所在地 大阪市天王寺区清水谷町6-16

施工 大林組

改修面積 134.40㎡

竣工 2007年1月

撮影 フジタ写真工房

「建築と社会」誌

特集一覧 ●1986～2007

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」として創刊された。大正8年に「日

本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。取り上げてきた特集テーマは下記のと

おりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-6946-6981、FAX 06-6946-6984）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1986 vol.67	● これからの 住空間—都市型 集合住宅にみる	● 屋根—その デザインと 素材	● 現代デザイン —モダニズム 10年 ● これからの 防水工法	● インテリア —インテリア の建築・設備 計画	● 自治体営繕 と公共建築	● 建築防災と 法 ● 大阪市庁舎 （第2期）	● 21世紀の 住宅と設備	● 開発—その創造 的仕掛けの鍵を もつて— ● ツイン21	● CAD— その応用と展開	● オフィス空間 の構成	● 第33回 青年技術者	● インテリア・ イクステンション とリニューアル
1987 vol.68	● 入浴物語	● 腐食	● 創立70周年 記念号	● 躍動する 東海へ	● 貯蔵・保管 施設 ● 大阪府立 体育会館	● 室内の仕上床	● 駅	● 行政建築家 の可能性	● シティホテル の設備	● 宝塚の 街づくり*	● 建物と町並みの 接点 ● 昭和設計 作品集	● 第34回 青年技術者
1988 vol.69	● ホテル物語	● 軟弱地盤 と基礎 ● 文化と伝統—東 海からの報告	● 設備における LCCと リフレッシュ ● 東海建築事務所 作品集	● 建物の外装 リフレッシュ*	● 都心居住	● 中国地方の展望 とひろしまの まちなみ	● 21世紀への 照明*	● 制振*	● 超高層住宅 を考える	● 集合住宅の リフレッシュ* ● 大阪府営 善	● 第35回 青年技術者 ● 800号記念*	● 読書テレビ
1989 vol.70	● 夢をのせる 輸送設備	● リゾート事情 ● 竹中工務店 創立90周年記念	● 色の復権 ● 東海の新建築 と伝統技術*	● 省力化の ための材料 ・工法	● まちづくり と法	● 博覧会と まちづくり	● 都市環境創造 と設備I	● 建築とアート	● 構造の省力化 ● 尾島建設大阪支店 建築設計部作品集	● 都市環境創造 と設備II ● ユーザー参加 のハウジング	● 第36回 青年技術者	● 最近の博覧会 パビリオン
1990 vol.71	● 商品化住宅 のデザイン*	● ニュータウン・ ルネサンス	● 東海の都市 景観 ● 佐賀市文化会館*	● スケール感	● プレハブ 住宅技術の 現在と未来	● 国際花と 緑の博覧会	● 建築家のための 設備知識—集合 商業ビルによる ケーススタディー	● 高強度化— 設計の多様化 をめざして—*	● やわらかな 住宅管理・ ユーザーの 役割	● 都市のナイス ・プレイス ● 兵庫県営館 の歩み	● 第37回 青年技術者 ● 和歌山県 の展望と景観*	● 高級感—建物の 顔：感性の時代 を遊んで— の外装材
1991 vol.72	● 新しい都市 空間づくり —I—	● オフィス・ プレジャー ● 新しい都市空間 づくり—II— ● 建築の風景	● 東海支部 復活30周年 記念	● 大阪東京海上 ビルディング	● 今、京都 ● 建築家のための 設備知識—集合 商業ビルによる ケーススタディー	● 建築と土木 ● 毎日放送本社ビル ● 近畿地方建設 局営繕部	● 一般号*	● 建築をめぐるト ラブルとその解決 ● 建設現場のイメ ージアップ作戦	● 空間のアイデン ティティ ● きんでん写真集 ● 大建設計40周年	● 自治体住宅 政策への提言 ● 大林組創業 100周年記念	● 建築と土木 —構造技術 の世界— ● 第38回青年技術者	● スムでタフな コンクリート ● 21世紀の住まい を考へる シンポジウム
1992 vol.73	● 夢物語— 人がかわる、 まちがかわる—	● こだわりの インテリア ● 近畿の郵政建 築15年の歩み	● 建築と デザイン —東海支部—*	● 建築家のための 設備知識—集合 高層住宅の設備 システム—	● 地球環境 時代の建築	● 街創り、住まい 創り—住宅・都 市整備公団関西 支社10周年—	● 木構造を使っ てみませんか —集成材に よる構造—*	● 接着— 建築分野への 限りなき可能性	● 中国地方の 町並みと建築 家の「語り、夢、 作品」*	● 屋台—仮設の 魅力に学ぶ— ● ハウジングの メインストリーム を探る	● いま建築教育 に何が期待 されているか	● 京のかたち と色
1993 vol.74	● 第38回青年技術者 ● 東海建築事務所 創立60周年 記念作品集	● 大阪府営繕	● 東海美術館 ・博物館	● 市民劇場の 舞台設備	● 環境— 限りある自然 と建築との かわり	● 都市の スカイライン	● 映画の中の インテリア ● けいはんなプラ ザ・住友ホール	● 建築の再生 —構造技術の 役割— ● 大阪府営繕	● 国際的パート ナーシップの 可能性	● 福祉の まちづくり	● 都市型住宅 再考	● 第40回青年技術者 ● 環境一人に やさしい空間創 造をめざして
1994 vol.75	● コピー文化の 新時代 ● 広島市の街創り アジア競技大会	● 九州のイン スタレーション と競	● 伊勢・神宮 式年遷宮と 神宮界隈*	● 建築のエネ ルギーシス テム	● 明日に向か って—会員 作品*	● いま、医療 施設は	● 住空間にお ける居どころ への視点	● 私の空間 作法—会員 作品	● 水と建築 ● 日本建築 総合試験所	● 建築設備のCG シミュレーション ● 村野、森建築 事務所	● 構造美— 建築の中の美 ● 集合住宅団地 リニューアル	● 第41回 青年技術者 ● 関西国際空港
1995 vol.76	● 光がつくる 風合の世界 *	● 音—騒音から 播音/創作へ	● 飛騨・美濃 —まちの活性化 と地方文化*	● トイレから 見た都市 文化	● トイレ空間	● 接合 ● コスモタワー	● ユニバーサル デザインとは	● 私の空間 作法—会員 作品	● 新しい「都 市・建築」 の視点*	● 建築構造と 社会の接点 ● 日建設計*	● ライフライン と建築設備*	● 第42回 青年技術者 ● 滋賀県建築課
1996 vol.77	● 阪神大震災 から学ぶ *	● 大阪府住宅 供給公社創立 30周年記念*	● 遠江—その 地方振興と 文化*	● 立体駐車場 設備 ● 大建設計	● 災害！非常時に 生きる法体系 ● OAPタワーズ	● いま、プール がおもしろい	● 住まいの 未来像	● マルチ メディアが つくる世界	● キーコンセプト の新時代	● 最新の大規模 スポーツ競技 施設の設備	● 私の空間作法 96 ● 九州の元気 ● りんくうの3作品	● 第43回青年技術者 ● 近畿道建築部
1997 vol.78	● 建築のロン グライフ化 をめざして	● 鉄ものがたり *	● 東海支部会員作品 ● 鉄—建築・文 化とまちなみ—建築*	● 創立80周年記念 /建築と私と社会 —80人の眼—*	● 木造建築物の伝統 技術とその継承	● 住む空間の 復興—災、復興 の復興と新たな展開へ— ● 住都公団関西支社	● 素材の不思議 ● 大阪ドーム	● 新エネルギー ● 住宅・都市 整備公団改 革への提言	● クロスワード 都市OSAKA *	● モザイク都市 の住む人たち ● 昭和設計 40周年	● 私の空間 作法 —会員作品—	● 第44回 青年技術者 ● 京都駅ビル
1998 vol.79	● 新しいまちづ くりの予感 ● 東海建築事務所 創立65周年	● Concrete ● 九州とわたし、 そして建築	● 東海支部 会員作品 ● 信州—諏訪と その周辺—	● 街並みの演出— 最近の外構材料	● 生活環境の 安全・安心	● 地球環境 保全と建築	● 心と体を 元気にする インテリア	● 建築設備— ビルメンテナ ンスの立場から	● 建築への証 言—98 —21世紀に 向けて	● ゆれをとめる 一たええる技術 からかわす 技術へ	● 私の空間作法 ● 2001年の医療 施設	● 第45回青年技術者 ● 駅とともにもんだ JR西日本の12年
1999 vol.80	● “らしさ” のデザイン ● 建築を競どる 小粋なモノの仕掛	● 大阪市都市 整備局	● 東海支部 会員作品 99 ● 北信濃—街並み 移住と地域文化 の再構築	● 都市の パブリック	● 関西建築界の流 れと東海建築三 の足跡をたどる	● 大阪城天守閣 平成の大改修	● 改正建築基準 法—まちづくり・ 住まいづくりへ の展開—	● 私の目みだ 環境問題	● アーバンイン テリア—都市 空間としての インテリア	● 木とともに	● 私の空間作法	● 第46回 青年技術者
2000 vol.81	● 21世紀のデザ インの動向を見る ● 安井建築設計事務 所創業75周年	● 中国支部—しな み海と中国地方 の街づくり—	● 東海支部 会員作品 2000 ● 越中—富山—地域文化 の復興と新たな 展開—	● こころを癒す 環境デザイン	● 測る—測定方法 と測定結果が 意味するもの—	● スケルトン& インフィル	● 改正建築基準 法—パートII—	● 100年後への メッセージ ● 日建設計創業 100周年	● 来世紀に 引き継ぐ— わざ、もの、 こころ—	● 時間	● 私の空間作法 —会員作品— ● 21世紀の高齢 者の居住環境	● 第47回 青年技術者
2001 vol.82	● エス・ティ・ ティファリ ティーズ	● 21世紀の建 築設計教育	● 東海支部 会員作品 ● 岐阜・大垣	● IT社会に おけるきず な	● 自然素材を めぐる「もの ・わざ・ひと」	● 成熟社会を ささえる まちづくり	● 現代の日本 の空間・文 化を探る	● 環境—近未来に 向けて— ● 大建設計—作品特集 1996—2001—	● 建築の力 都市の力	● 緊張 ● 都市基盤整 備公団関西 支社	● 私の空間作法 —会員作品— ● NHK大阪放送会館 ・大阪歴史博物館*	● 第48回 青年技術者 ● 大阪府中央 公会堂
2002 vol.83	● 国土交通省 近畿地方整 備局営繕部 *	● 再生・リサ イクル	● 東海支部 会員作品 ● 愛知・名古屋	● 生活環境の安 全・安心 —パート2—	● 塗装の いろいろ	● 都市再生に向 けた建築基準 法集団規定の あり方	● いま、インテ リアデザインは ● 漢町 リバープレイス	● 建築をささ えるセンサー	● 建築とボラ ンティア	● 時を超えて— サステナブル エンジニアリ ングの現在—	● 私の空間作法 —会員作品—	● 第49回 青年技術者 ● 大阪府中央 公会堂
2003 vol.84	● 東海建築事務所 創立70周年	● 九州の地域づ くり、まちづ くり	● 東海支部 会員作品 2003 ● 愛知・名古屋—この地 の文化、建築と建 築づくりを考へる—	● サステイナビ リティ—次世代に 引き継ぐ都市・建 築、暮らしのデザイン—	● 建築と五感	● 都市計画法及 び建築基準法 等の改正	● コンバージョ ン—インテ リアから発信 するまちなみ—	● 介護と建築・ 設備	● 建築とノスタ ルジー—建築 の主観的価値に ついて—	● 力と素早く きこう方法	● 私の空間作法 —会員作品—	● 第50回青年 技術者+青 年技術者顕 彰50年
2004 vol.85	● 大阪市住宅局	● 都市緑化	● 東海支部 会員作品 ● 愛・地球博 *	● 省リスクな 「まち再生」 *	● リニューア ルの技	● 地域住民主体 のまちづくり と支援制度	● Product Design+1	● 銭湯—心地 よさを求め て—	● 建築家とは 何か	● 巨大地震に そなえて	● 私の空間作法 —会員作品—	● 第51回 青年技術者
2005 vol.86	● 震災から 10年	● 「健やか」 ● 長崎医療 センター	● 東海支部 会員作品 2005 ● 東海における施設 づくりへの新たな試み	● 建築の経済 化	● 住まいの方 の変化	● 人工栽培	● 次世代に伝 える「木」の建 築 ● 「建築と社会」 1000号記念	● 改正建築基 準法と景観 緑三法	● 火災から 守る	● 構造の過去 から未来へ *	● 私の空間作法 —会員作品—	● 第52回 青年技術者
2006 vol.87	● 都市環境デ ザインと参 加のまちづ くり	● 「地方空港 の時代」—まち と共存する空 港づくり—	● 東海支部会 員作品 2006 ● 十東海支部 特集3部作*	● 都市再生の 本質—光と 影のはざま で—	● 変容する家 族形態とあ たらしいライ フスタイル	● 身近な省エネ ギー—エネル ギーをたくわえ、有 効利用する—	● 設計図が伝 えるもの	● 建築物の安 全・安心 *	● 第53回 青年技術者	● 「セキュリ ティ」	● もしも… —構造が未 来へつなぐ 夢—	● 私の空間作法 —会員作品—
2007 vol.88	● 光り輝く 京都の景観 まちづくり	● 学校新時代	● 東海支部会 員作品 2007 ● 十東海支部 特集3部作	● 創立90周年 記念—この 10年、これ からの10年	● あそび考	● こだわりの 創る住まい のカたち	● 住まいの設 備と空間の 移り変わり	● 建築系雑誌 が伝えるも の	● 建築家とは 何か	● 第54回 青年技術者	● ガラスを 考える	● 楽しい構造 の世界

*は欠号

特定住宅瑕疵担保責任の 履行の確保等に関する 法律の概要

赤井英稔

京都府土木建築部建築指導課

住宅の買主等を保護するため、新築住宅の売主や請負人に、保証金の供託または保険への加入（資力確保措置）を義務付ける「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律」（住宅瑕疵担保履行法）が平成19年5月に制定された。

平成21年秋以降に引き渡す新築住宅について資力確保措置が義務付けられるため、請負契約や売買契約が平成21年秋以前であっても、引き渡しがそれ以降になる場合には、あらかじめ保証金の供託や保険への加入を準備する必要がある。

資力確保措置の義務

建設業者及び宅地建物取引業者（建設業者等）に対し、新築住宅に係る瑕疵担保責任の履行の確保を図るため、住宅瑕疵担保保証金の供託または住宅瑕疵担保責任保険契約の締結を義務づける。

(1) 供託義務 建設業者等は、10年間に引き渡した新築住宅について品質確保法94条1項または95条1項の規定による瑕疵担保責任（特定住宅瑕疵担保責任）の履行を確保するため、保証金の供託をしていなければならない（法3条または11条）。保証金の額は、稀にしか発生しないような瑕疵の集中発生に対しても補修費用が確実に支払われるよう、過去の瑕疵による損害発生率や損害額等を基に定められている。

建設業者等が保険契約を締結し、保険証券などを買主等に交付した場合は、当該保険契約に係る新築住宅の戸数は、保証金の額の算定戸数から除くことができる。すなわち、引き渡したすべての住宅について保険契約を締結している場合は供託をする必要はなく、引き渡した住宅の一部の戸数は保険契約により対応し、残りの戸数は供託をすることも可能である。

(2) 保険契約の締結 保険契約は、建設業者等が保険法人に対して保険料を支払い、保

険法人は、新築住宅に特定住宅瑕疵担保責任に係る瑕疵があり、建設業者等がその瑕疵担保責任を履行したときに、当該建設業者等の請求に基づき当該建設業者等の損害を填補すること、または建設業者等が相当な期間を経過してもなお特定住宅瑕疵担保責任を履行しないときに、当該新築住宅の買主等の請求に基づき、その瑕疵によって生じた当該買主等の損害を填補することを約束して保険料を受取るものである（法2条5項または6項）。

保険契約は、保険金額が2000万円以上で、瑕疵担保責任の期間と同じ10年以上有効である必要があり、原則として途中で変更または解除をすることができない。

(3) 供託及び保険契約の締結状況の届出 建設業者等は、基準日（毎年3月31日および9月30日）ごとに、当該基準日に係る保証金の供託及び保険契約の締結状況について、業の許可または免許を受けた国土交通大臣または都道府県知事に届け出なければならない（法4条または12条）。建設業者等は、供託をしていても届出をしていないと、新たな契約が締結できない（法5条または13条）ことになる。

(4) 建設業者等による供託所の所在地等に関する説明 供託をしている建設業者等は、買主等に供託所の所在地等を書面で交付して、説明しなければならない。なお、建設工事の請負契約の場合には、請負契約の内容を記載した書面において保険契約の内容を記載することとし（建設業法19条）、建物の売買契約の場合には、保険契約の締結の有無と内容を書面で交付して説明することとされている（宅地建物取引業法35条1項）。

(5) 瑕疵担保責任が履行できない場合の買主等の保護 保証金の供託をしている建設業者等が特定住宅瑕疵担保責任を負う期間内に、構造耐力上主要な部分または雨水の浸入を防止する部分の瑕疵により損害を受けた新築住宅の買主等は、その損害賠償請求権に関し、当該供託金について優先弁済を受ける権利を有する（法6条1項または14条1項）。これにより、建設業者等が倒産などをした場合でも、新築住宅の買主等は、他の債権者に先立って優先的に供託金の還付を受けることができ、利益の保護が図られる。

保険の場合、保険契約が締結されている住宅に構造耐力上主要な部分または雨水の浸入を防止する部分の瑕疵がある場合で、建設業者等が相当の期間を経過しても当該特定住宅瑕疵担保責任を履行しないときには、当該住宅の買主等は、保険法人に対し、その瑕疵によって生じた損害を請求することができる

（法2条5項2号口または同条6項2号口）。

一般的に瑕疵が故意・重過失によって生じた場合には保険金支払いの対象とはならないが、建設業者等の故意・重過失により瑕疵が生じた場合に住宅の買主等が保護されないのでは、構造計算書偽装問題のような事案には対応できない。そこで、建設業者等の故意・重過失により瑕疵が生じた場合には、建設業者等が自らの負担において瑕疵担保責任を履行し、保険法人は当該建設業者等に対して保険金を支払わないことを原則としつつ、当該建設業者等が倒産などにより瑕疵担保責任を履行できない場合には、保険法人は、当該住宅の買主等の請求に基づき、保険金を支払うことができる。

保険引き受け主体の整備

国土交通大臣は、住宅に係る瑕疵担保責任の履行の確保を図るための保険契約の引き受けを行う法人を、住宅瑕疵担保責任保険法人として指定することができることとした。住宅の瑕疵に関する保険業務の実施には、高度な建築の技術的知識による判断が必要であり、既存の損害保険会社では対応できないことから、新たに住宅の検査と保険の引き受けを一体として行う保険法人の指定制度を設けた。

紛争処理体制の整備

瑕疵責任保険契約に係る紛争の迅速かつ適正な解決を図るため、処理体制を整備することとした。

住宅の瑕疵の有無やその範囲をめぐっては、建設業者等と買主等との間で紛争が発生することがある。紛争の簡易・迅速な解決をめざし、住宅瑕疵担保法においては、住宅品質確保法に規定する指定住宅紛争処理機関が、住宅品質確保法に規定する建設住宅性能評価書が交付された住宅についての紛争処理業務のほか、保険契約に係る新築住宅の建設工事の請負契約または売買契約に関する紛争の当事者からの申請により、当該紛争のあっせん、調停及び仲裁の業務を行うことができる。

施行日と政令

この法律は、周知期間等を考慮して公布の日（平成19年5月30日）から1年を超えない範囲内で、政令で定める日から施行となっている。執筆時点では、この政令案のパブリックコメントが行われており、平成20年4月1日施行となっている。また、資力確保措置が義務づけられる規定は、公布の日から2年6カ月を超えない範囲内で、政令で定める日から施行となっており、政令案では平成21年10月1日である。（あかい ひでとし）

液状化による建築基礎被害とその対策

船原英樹

大成建設技術センター建築技術研究所主任研究員 博士(工学)

人工的な埋立地や堆積年代の新しい沖積低地などでは、地震時に地盤が液状化する場合がある。液状化すると、地盤が建物を支持する能力は低下し、地震の揺れによって、地盤は大きく変形する。その結果、建物が沈下・傾斜したり、建物を支持している杭が損傷したりして、甚大な被害につながる恐れがある。

したがって、液状化の可能性がある地盤においては、このような基礎の被害を防ぐ設計が肝要である。

液状化の発生条件

液状化する地層が有する条件は、「①粘性の少ない砂質土」が「②ゆるく堆積」してい

て、かつ「③地下水で飽和」されていることである。このような地層に、地震によって「④大きなせん断応力が繰り返し作用」すると、地下水の圧力(間隙水圧)が徐々に上昇し、砂粒子の間の接触が徐々に外れて、液体のように軟らかく弱い状態になる(図1)。

なお、ゆるく堆積している砂層は、前述の埋立地や沖積低地で多く見られ、標準貫入試験で得られる N 値が10程度以下と、小さな値を示す場合が多い。

液状化による建築構造物の被害

地盤の液状化によって引き起こされる建築構造物の被害は、基礎構造の形式によって大きく二つに分類することができる。すなわち、一方は「直接基礎」形式の被害、他方は「杭基礎」形式の被害である。

直接基礎形式は、比較的荷重が小さい低層の建物を、基礎スラブを介して地盤の浅い部分で直接支持させるものである。したがって、基礎スラブ直下の地盤が液状化すると、地盤の強度(支持力)が低下するため、建物が沈んだり、傾いたりする(図2、写真1)。

一方、杭基礎形式は、建物荷重が比較的大きく、直接基礎で支持させることができない場合に採用される。杭基礎は、さらにその支持力発現機構によって「(周面)摩擦杭」と「(先端)支持杭」に分類される。

摩擦杭は、杭周面の摩擦力によって鉛直支持力の大部分を負担するものであるが、杭周面の地盤が液状化するとその摩擦強度が低下し、鉛直支持力を喪失する。その結果、建物が沈んだり、傾いたりする。

支持杭では、堅固な支持層に根入れした杭下端部でその鉛直支持力の大部分を負担しているため、杭周面の表層地盤が液状化して摩擦強度が低下しても全体としての鉛直支持力を喪失することはない。しかし、液状化した表層地盤は非常に軟弱であるため、杭頭水平力(建物慣性力)に対して地盤は強く抵抗できない。したがって、比較的小さい杭頭水平力によって、杭に大きな曲げモーメントが発生する。それに加えて、軟らかくなった液状化層が、地震の揺れによって大きくせん断変形し、そこにある杭を強制的に折り曲げることによって、杭を破壊に至らしめる場合もある(図2、写真2)。このように、杭頭部や地中部において「杭体」が破損した結果、鉛直支持力を喪失し、建物が沈下したり、傾斜したりする場合もある。

液状化対策と基礎の設計

液状化による被害を防止する対策の考え方は、大きく二つに分類される。一方は、地盤の液状化そのものを防止する考え方であり、他方は、地盤の液状化を許容した上で、杭などの構造要素が破損しないように補強しておく考え方である。

液状化の発生そのものを防止するためには、前述の液状化の発生条件のうち、少なくとも一つの条件をなくせばよい。それぞれの条件に対応する対策は下記のとおりである。

- ①粘性のない砂に、セメントや薬液などを混ぜて「固化」する。
- ②ゆるい砂を密に「締め固める」。
- ③「地下水位を低下」させる。
- ④「剛性の高い地中壁などで地盤を囲い」、地盤に作用する繰返しせん断応力を低減する。

一方、液状化の発生を許容する場合には、一般的に直接基礎形式は成立しないため、杭基礎形式を採用せざるをえない場合が多い。加えて、その杭の断面は、液状化で増大する応力や変形を評価した上で決める必要がある。コンクリート系の杭の場合には鉄筋量を増やしたり、鋼管巻きにしたりして、杭体の靱性を向上させる。建物の重要度等に応じて設計のクライテリアは異なり、短期許容応力にとどめる考え方や、終局限界状態に達しないようにする考え方などがある。

(ふなはら ひでき)

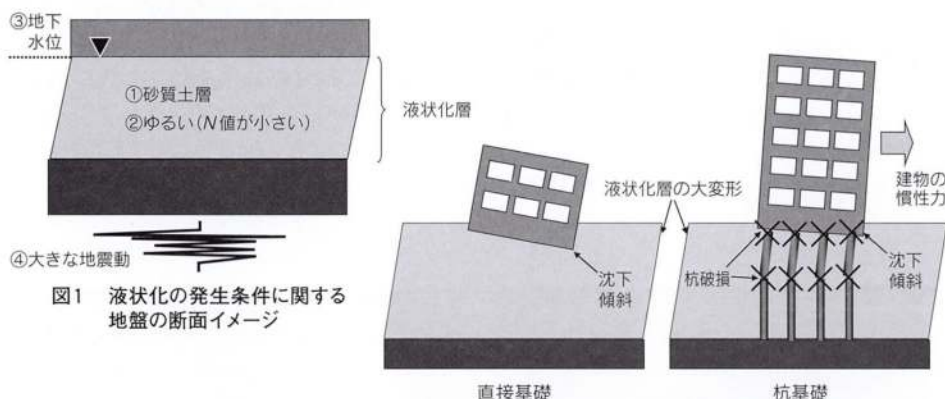


図1 液状化の発生条件に関する地盤の断面イメージ

図2 液状化地盤における建築構造物の被害パターン



写真1 1964年新潟地震で傾斜した直接基礎建物(地盤工学会:1964年新潟地震液状化災害ビデオ・写真集)



写真2 1964年新潟地震の20年後に掘り出された破損した杭

▼建築資材等のリユース アイデアコンペ開催

独立行政法人 都市再生機構西日本支社 主催

都市再生機構では、UR賃貸住宅の「建て替え」で発生した建設資材をリサイクル材として利用しているが、なお、破棄される資材も少なくない。

本コンペでは、昭和30年代に建設されたUR賃貸住宅の建て替えにより発生する建築資材をリユース（製品や部材の形状のままでも繰り返し使う）し、新たな住まいや、その周りの暮らしにかかる素材として活用するためのアイデアを求める。コンペ詳細は<http://www.ur-s.jp/reusecompe/>で公開中。

●応募規定

企業・団体、個人・グループ、プロ・アマ、年齢、性別、国籍を問わず応募可。応募点数は制限なし。応募作品は、オリジナル作品に限定し、国内外において未発表のもの。

●入賞作品・賞品

最優秀賞 1点／賞状・副賞 20万円

優秀賞 2点／賞状・副賞 10万円

部門賞 4点／賞状・副賞 5万円

●審査委員

都市再生機構西日本支社の4部署の部長

●提案の条件

①リユース対象材—建て替えにより発生する外部建具／外部金物／内部造作／内部建具／住宅設備

②リユース提案の分類— a) 内装材として利用 b) 建具や家具などの製品としての利用

③その他—一般的建設技術で制作可能なもの

●提案の様式・仕様

①「応募用紙」（ウェブサイトから入手可能）

②「提案用紙」

・サイズ、全体形状、提案趣旨が明解な表現を。
・A3サイズ（縦横自由）にレイアウト。紙種類自由、彩画、画材、写真等貼り付け自由。ただし、立体、半立体は不可。

・データの場合は、JPEG形式もしくはPDF形式。データは1MB以内。解像度は300dpi。

③応募作品提出期限

2008年 2月15日～2月29日（消印有効）

④インターネット及び郵送による作品提出先

データ送付先：reusecompe@ur-s.jp

郵送先：〒536-8550 大阪市城東区森ノ宮1-6-85 都市再生機構西日本支社技術監理部市街地設計チーム「建築資材等のリユースアイデアコンペ」係

⑤問い合わせ

都市再生機構西日本支社技術監理部市街地設計チーム（中川、前川）

FAX06-6969-9017 reusecompe@ur-s.jp

●入賞発表—2008年3月下旬—

▶セーフティネット保証（5号）の 対象業種の追加指定 —経済産業省—

2007年6月の改正建築基準法の施行に伴い、建築着工が大幅に減少して、建築関連の中小企業者の業況が悪化している。経済産業省では建築関連中小企業者への金融の円滑化を図るため、セーフティネット保証（5号）の対象業種を追加した。

これにより、対象業者は通常の枠に加えて、別枠で、普通保証2億円、無担保保証8千万円の保証の利用が可能となり、一般保証に比べて割安な保証料で保証を受けることができるようになる。

追加の業種には、建築工事業、木造建築工事業、大工工事業、鉄骨工事業、建築用金属製品製造業（業種制限あり）、建築設計業など15業種が含まれている。

問い合わせは、最寄りの信用保証協会か、中小企業庁金融課（TEL03-3501-1511）へ。

▶石綿飛散防止セミナー開催

アスベストを使用した建築物等の解体作業がこれからピークを迎えると考えられ、また、災害時の倒壊建物の解体・運搬・処理においてアスベストの飛散が予想されることから、環境省は石綿飛散防止マニュアルを作成した。このマニュアルをもとに、環境省主催で石綿飛散防止セミナーが開かれる。受講料無料。

●福岡・パピオン24／2008年 1月31日（木）

●大阪・大阪府社会福祉会館／2月1日（金）

●東京・国立オリンピック記念青少年総合センター／2月6日（水）

●名古屋・名古屋市公会堂／2月7日（木）
時 間 13:30～16:00

定 員 各会場100名程度（先着順）

詳しくは、(社)全国環境保全推進連合会のホームページ<http://www.napec.or.jp>を参照。

▶自立循環型住宅設計講習会

「自立循環型住宅」は住宅の生活時のエネルギー消費を50%削減することを目指しており、講習会では「自立循環型住宅の定義」「設計プロセス」「外皮設計技術」「自然エネルギー活用技術」「省エネルギー設備計画技術」「省エネ効果の定量予測」について解説する。

日 時 2008年 1月23日（水）10:00～17:00

会 場 日本薬学会 長井記念館・ホール

定 員 150名（先着順）

受講料 8000円（テキスト代・消費税込）

問い合わせは、(財)建築環境・省エネルギー機構企画・環境部（TEL03-3222-6682）へ。

▶「アトリエ・ワン／千葉 学」展

巡回展は、2006年から2007年にかけてギャラリー・間で開催した「千葉学 そこにしかない形式」と「アトリエ・ワン展 いきいきとした空間の実践」を、合同展として再構成したもの。入場無料。

会 期 2008年 1月11日(金)～19日(土)
10:00～18:00 (金曜日は19:00まで、
1/19は16:00まで)
会期中無休

会 場 TOTOテクニカルセンター大阪
大阪市中央区久太郎町3-6-8
御堂筋ダイワビル2階

展 示 ●千葉学展—日本盲導犬総合セン
ター、Iプロジェクト、platform、ハ
ヶ岳の別荘、恵比寿のギャラリー、
御殿山プロジェクト、七里ガ浜プロ
ジェクトの7作

●アトリエ・ワン展—ハウス&アトリ
エ・ワン、ガエ・ハウス、ハウス・タ
ワー、ノラ・ハウス、鶴山荘、スウェ
ー・ハウス、インビー・ハウスなど

▶松伯美術館常設展 「鳥に詠い 花に遊ぶ」

父親のような愛情で花鳥に接してきた上村松
篁と、自然の厳しさを崇高な精神性をたたえ
た画面に表現している淳之。二人の画風に違
いはあっても自然に向き合い制作に臨んだ姿
勢は共通している。

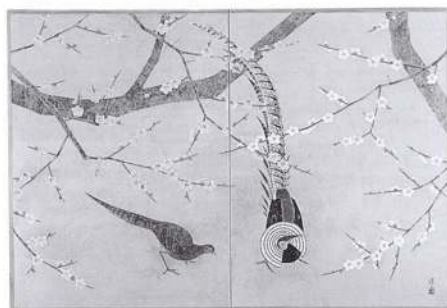
会 期 2008年 1月5日(土)～2月3日(日)
10:00～17:00

月曜日休館(1/14は開館、翌日休館)
会 場 松伯美術館 TEL0742-41-6666
奈良市登美ヶ丘2-1-4

入館料 大人・高大生800円、小中生400円

展 示 本画約30点と下絵・素描10点
・上村松園—娘・雪・暮秋
・上村松篁—仙禽啖光・水禽・鳥影
趁春風・芥子ほか
・上村淳—一夜の沼、白馬鳥・白孔
雀・雪の日ほか

本展の招待券あり。



上村淳之《銀鶏紅白梅図》平成14年

▶ヤノベケンジ展「トラやんの大冒険」

会 期 2007年12月7日～2008年 1月19日(土)
11:00～19:00 (土曜日は17:00まで)
日・月・祝・12/23～1/7は休廊

会 場 アートコート ギャラリー
大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアー
トコート TEL06-6354-5444

「アトムスーツ」を着てチェルノブイリを訪
れたヤノベケンジは、その記憶と経験をもと
に、10年後に「トラやん」と「小さな太陽」
の絵本として新たな物語を紡いだ。

本展では、絵本の全頁肉筆原画、制作ドキュ
メント写真など、そしてファンタスマゴリア
(次々と去来する幻影)と題する、光と影の
新作インスタレーションを発表する。

▶クマグスの森—南方熊楠の見た夢—

博物学者、民俗学者、植物学者として奔放な
研究と生き方をした南方熊楠(1867～1941年)
を、初公開の資料、また国立科学博物館の協
力による400点のきのこ図譜などにより紹介。

会 期 2007年10月7日～2008年 2月3日(日)
11:00～19:00 (水曜日は21:00まで)
月曜休館、1月14日は開館

会 場 ワタリウム美術館2～4階と野外展示
東京都渋谷区神宮前3-7-6

入場料 1000円、25歳以下の学生800円

内 容 ①「世界を放浪する」②「熊楠の内
的宇宙」③「森の命」

▶「30年分のコレクション」

大阪・吹田市の万博公園に建つ万国博美術館
の建物を譲り受け、1977年、国立美術館とし
て開館。以来30年間、国立国際美術館が集め
た約5700点の収蔵品の中から、開館30年を
記念して約400点を選びすぎり、紹介する。

会 期 2007年12月18日～
2008年 2月11日(月・祝)
10:00～17:00 (金曜日は19:00まで)
毎週月曜日と12/28～1/4は休館
ただし1/14(1/15休館)・2/11は開館

会 場 国立国際美術館
大阪市北区中之島4-2-55

観覧料 一般1000円、大学生500円
小中高生は無料

展 示 セザンヌ、ピカソ、デュシャン、フ
ォンタナ、ウォーホル、ボルケ、ト
ニー・クラッグ、キキ・スミス、藤
田嗣治、佐伯祐三、吉原治良、浜口
陽三、草間彌生、高松次郎、横尾忠
則、舟越桂、小林孝亘、やなぎみわ、
須田悦弘らの作品



森村泰昌
《肖像(ファン・
ゴッホ)》
1985年
国立国際美術館蔵
©Yasumasa
Morimura

招待券は日本建築協会 (TEL06-6946-6981) へ。

▶石はきれい、石は不思議 展

INAXギャラリー大阪の会場では、津軽に生
まれ育ち、津軽の石に魅せられた牧野喜美雄
さんと石戸谷秀一さんの石のコレクション、
合わせて約280点を紹介する。さらに、写真
家・中里和人さんが14年前から始めた津軽
探石行で海岸で集めた輝く小石たちも。

会場の一隅では、建築史家・藤森照信さん、
著述家・林丈二さん、美術家・栗田宏一さん、
エッセイスト・盛口満さんら十数名の石のコ
レクションが、石と出合った持ち主の「こと
ば」とともに登場する。入場無料。

会 期 2007年12月7日～2008年 2月22日(金)
10:00～18:00

休館日: 水曜日、12/29～1/6

会 場 INAXギャラリー大阪
大阪市中央区久太郎町4-1-3
伊藤忠ビル1階

■対談「私が石を拾うわけ」(参加無料)

講 師 中里和人、渡辺一夫(フリーライター)

日 時 2008年 1月25日(金) 18:30～20:00

会 場 INAX大阪ショールーム

申込み INAXギャラリー大阪 TEL06-6733-1790

▶REALIZE 立脚中国展開世界 迫慶一郎／松原弘典

迫慶一郎氏(1970年～)は、山本理顕設計工
場を経て、2004年に中国でSAKO建築設計工
社を設立。松原弘典氏(1970年～)は伊東豊
雄建築設計事務所を経て、2005年に北京松原
弘典建築設計諮詢有限公司を設立。

迫慶一郎氏の会場では、竣工予定の14プロジ
ェクトが建築模型で展示される。松原弘典氏
の会場では、2003年の内装プロジェクトから
現在進行中の建築・都市プロジェクトまで8
作品を木製模型、図面付き解説パネル、壁面
の写真で紹介する。入場無料。

会 期 2007年12月5日～2008年 2月23日(土)
11:00～18:00 (金曜日は19:00まで)

日・月・祝日休館、12/23～1/7は休館

会 場 GALLERY・MA(TOTO乃木坂ビル)
東京都港区南青山1-24-3

▶川端康成と東山魁夷 —響きあう美の世界—

川端康成と東山魁夷の間に交わされた書簡には、魁夷の作品や康成が収集した美術品をめぐり、魂の交流をうかがうことができる。

本展は、往復書簡や折々に記された康成と魁夷の言葉をガイドにして魁夷の作品を見つけ直すとともに、川端康成記念会のコレクションから3点の国宝や新発見の作品を展示する。

会 期 2008年 1月16日(水)～2月24日(日)
10:00～18:00

月曜日休館(祝日の場合、翌火曜日)

会 場 京都文化博物館 TEL075-222-0888
京都市中京区三条高倉

入場料 1000円、大高生700円、中小生400円

展 示 ・東山魁夷作品—「深秋」「白夜」「冬華」「北山初雪」など約50点
・川端康成記念会より—池大雅・与謝蕪村「十便十宜図」、岸田劉生「麗子喜笑図」、古賀春江「煙火」、草間彌生「不知火」など約20点
・康成旧蔵品—浦上玉堂「山廻路轉図屏風」、富岡鉄斎「蝦夷人図屏風」
・その他—川端康成墨跡、原稿、書簡など約40点

招待券は日本建築協会(TEL06-6946-6981)へ。



東山魁夷「緑のハイデルベルク」1971年
北澤美術館所蔵

▶兵庫県立美術館 5周年記念 ムンク展

ノールウェーのエドヴァルド・ムンク(1863～1944)は、近代人の孤独や煩悶を描いた象徴主義的作品によって親しまれている。

兵庫県立美術館ではムンクの人間の内面に沈潜するかのような代表作に加え、日本では紹介される機会がなかった、建築物の装飾絵画を大きく取り上げる。ムンク芸術を装飾との関連で読み解こうとするものである。

会 期 2008年 1月19日(土)～3月30日(日)
10:00～18:00(金・土は20:00まで)
月曜日休館、ただし2/11は開館・翌2/12休館

会 場 兵庫県立美術館・企画展示室
神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1



ムンク《生命のダンス》1925-29年
オスロ市立ムンク美術館 ©Munch Museum, Oslo

入場料 1300円、大高生900円、小中生500円

出 品 油彩およびテンペラ53点、水彩・クレヨン・木炭など42点、銅版画およびリトグラフ12点、彫刻1点の全108点—《不安》《絶望》《別離》《声/夏の夜》《赤い蔭》、アクセル・ハイベルク邸の装飾、マックス・リンデ邸の装飾、ベルリン小劇場の装飾、オスロ大学講堂の壁画、フレイア・チョコレート工場の装飾、オスロ市庁舎のための壁画プロジェクトなど

招待券は日本建築協会(TEL06-6946-6981)へ。

▶兵庫県立美術館の 2007年度コレクション展Ⅲ

兵庫県立美術館では、コレクション展を開催。近現代の洋画・日本画・彫刻・陶のオブジェ、近代の版画と写真、現代美術を展示中。

会 期 2007年12月1日～2008年 3月9日(日)
10:00～18:00

月曜日休館(1/14と2/11は開館)

メンテナンス休館日は1/5～1/12

会 場 兵庫県立美術館・展示棟の1・2階
神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

阪神電車「岩屋」駅下車、徒歩8分

入場料 500円、大高生400円、中小生250円

展 示 ・兵庫県立美術館所蔵より約180点
・「伊藤隆康展—絵画から環境へ—」
・安藤忠雄コーナー—兵庫県立美術館とその近辺の建築の模型—

コレクション展の招待券は、日本建築協会(TEL06-6946-6981)へ。



ケーテ・コルヴィッツ『農民戦争』より《捕らえられたもの》1908年

▶「企業ミュージアムの協会」見学会

「ザ・バック(株)包装資料館」には、世界の百貨店、化粧品、ファッション等々の手提げ袋など包装のあらゆる資料が取り揃えられており、見学会当日にはクリスマスのための最新作や、イタリアの最新流行情報が紹介される。また「大阪市立阿倍野防災センター」では、地震体験から救出活動までを体験する。定員は20名。

日 時 2008年 1月16日(水)

集 合 10:10 JR天王寺駅1階中央改札口・時計前

参加費 1500円(交通費・昼食代は各自負担)

行 程 10:30阿倍野防災センター→「あべのベルタ」で昼食→13:50JR住道駅下車→14:10ザ・バック(株)包装資料館見学→16:10現地解散

申込み 企業ミュージアムの協会事務局

TEL&FAX 06-6872-0969

▶横浜の小学校で企業が 環境出前講座

プリンス電機(株)は横浜市グリーン購入地域ネットワークに参加し、照明機器・施設照明の専門メーカーとして、「身近な『あかり(照明)に興味を持とう』—照明とは何? あかりを知るところから始めよう、楽しい環境配慮」と題して2007年10月から2008年2月まで、環境出前講座を実施。白い光の中にある虹色の光の実験、光の色によつての赤いリンゴの見え方の実験、教室の照度測定などを通して、照明の選び方や照明手法・使い方で楽しく環境配慮ができることを横浜市立小学校4校の4・5・6年生に教えている。



▼(株)INAX関西統括支社、 大阪支社、関連会社の移転

(株)INAX関西統括支社、大阪支社、および第三富士ビルに入居していた関連会社は、2008年1月7日(月)より新築ビルで営業する。

➡大阪市西区新町1-7-1 INAX大阪ビル

➡地下鉄四つ橋線・四ツ橋駅から徒歩2分

TEL06-6539-3500、FAX06-6539-3524

(いずれも変更なし)

第53回 工高生デザインコンクール

設計課題／こども園

応募校数●30校 応募作品数●139点

締切日●平成19年9月28日 審査会●平成19年10月20日 表彰式●平成19年11月10日

審査総評

審査委員長 林 浩二

公開審査であれば、審査員が何を考え、作品を選定しているのかわかるのですが、工高生デザインコンクールの場合、応募者が全国に広がっていることなどから非公開となっています。審査がどのように進んでいるかを伝えることも重要と思いますので、入選作品として選定される条件を「必要条件」と「十分条件」とに、大きく2つに分けて説明をします。

まず、予備審査が日本建築協会教育委員会で行われます。ここでは、応募規定に沿って、必要な図面が完備しているのか、作図上の不備は無いかをチェックすることになります。今回の応募作品ではすべてが審査の対象となりましたが、配置図に寸法記入が無いものが全体の約20%もあり、方位の記入が無いもの、果ては配置図すらないものもあり、残念です。建物がどのような環境の中にあるのかわかなければ、作品が意図しようとしていることもわかりません。予備審査では、必要条件を満足しているかを見ているわけです。

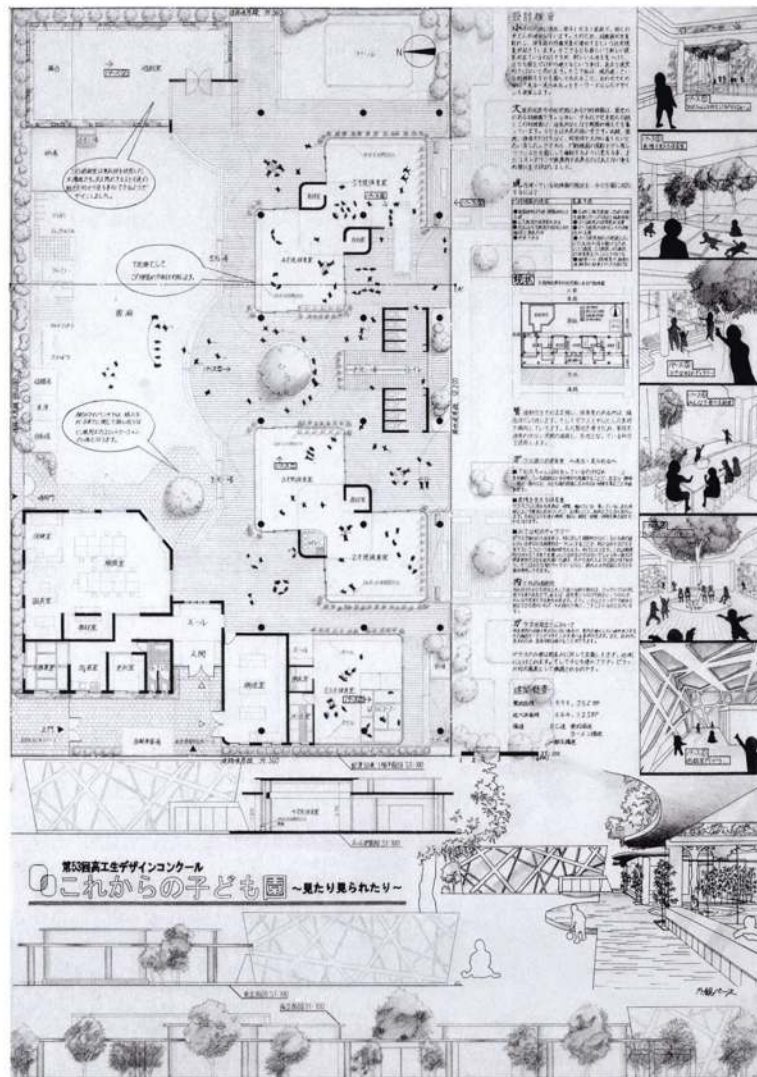
次に、審査委員による審査が行われますが、ここでは提案内容を審査します。個々の審査員によって判断基準は異なると思いますが、

- (1) 現状の問題点が的確に捉えられているか。
- (2) そして、それをどのように解決しようとしているのか。
- (3) 建築の形としてどう表現されているのか。
- (4) その表現が建築空間としてきちんと構成されているのか。
- (5) 外部環境とのかかわりをどう捉えているか。
- (6) 人々の活動が生き生きと感じられるか。

などを見ている。これが十分条件です。よくある傾向ですが、設計コンセプトに書かれていることが、図面に表現されていないものが多々あります。今回の課題ではコミュニケーションも重要なポイントですが、「コミュニケーション室」を設ければコミュニケーションが成立するわけではありません。コミュニケーションを誘発する仕掛け、出会いの場をどうつくるかを考えて欲しいと思います。入選作品の中でも最優秀賞の「これからの子ども園～見たり見られり～」は既存改修をするうえで、既存の柱列から外す形で構成しており、自由度を獲得しています。また内外とのコミュニケーションが考慮されており秀逸。優秀賞の「ブドウ棚下のこどもエンガワ」「郷育源場」は半外部空間の魅力、共用庭・路地の復活と、いずれも外部環境とのかかわりをうまく捉えていました。ただ、全般に共通することとして平面計画に力が注がれているが、断面や外観デザインまで到達していないものが多く、今後の研鑽に期待したいと思います。入選作や惜しくも入選を逃した作品にも力作が多く、皆様のこれからの活躍を大いに期待します。

●審査員 (50音順・敬称略) 一職場は平成19年10月当時—
林 浩二／(株)大林組本店建築設計部部長—委員長—
井上久実／井上久実設計室主宰

木村博昭／京都工芸繊維大学大学院工学科学研究科教授
久保清一／大阪芸術大学芸術学部建築学科教授
佐々木栄／(株)昭和設計都市・建築本部第1設計部長
笹村欽也／(株)東畑建築事務所大阪事務所設計部部長
田代 純／大阪工業大学工学部空間デザイン学科教授
寺岡宏治／(株)安井建築設計事務所設計部部長
徳岡浩二／(株)徳岡昌克建築設計事務所代表取締役社長
長坂 大／奈良女子大学生活環境学部環境学科准教授
濱田 徹／鹿島建設関西支店建築設計部長
平田隆行／和歌山大学システム工学部環境システム学科助教
増田俊哉／(株)竹中工務店大阪本店設計部第4設計部門設計担当副部長
吉羽裕子／(株)吉羽裕子建築研究所代表
渡辺豪秀／(株)日建設計設計部門設計室長



入選・最優秀賞 福嶋祥子 大阪市立工芸高等学校3年

今まで様々な課題に取り組んできたが、いつも新しいことに挑戦しようという気持ちで設計にあたってきました。今回は、先生に指導していただいたプレゼンテーションの方法を最大限に表現することを目標に制作しました。いまだに自分が最優秀賞を取ったことが夢ではないかと思っています。この課題に多くの時間を費やしましたが、その中で何度も壁にぶつかり、苦労しました。最後まであきらめず努力して本当によかったと思います。建築の奥深さと楽しさを知ることができました。指導して下さいました先生方に感謝したいと思います。

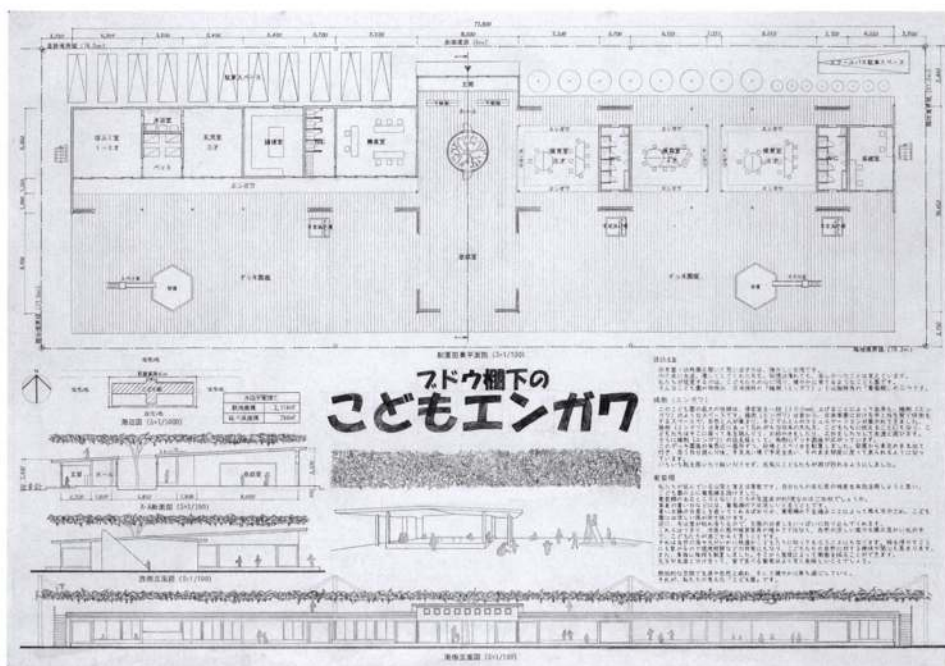
▲審査コメント／濱田 徹

「幼稚園と保育所の複合」「地域における子育て」という、こども園のエッセンスが、ガラス張りの園舎による「見たり見られり」というコンセプトにごく自然につながっている。明快なコンセプト、内と外の空間の連続性、既存躯体の利用、アクティビティをうまく表現したスケッチ等、最優秀にふさわしいバランスのとれた優れた作品である。

今回参加させていただいたのは、自分たちの保育園のころを思い出したからです。テーマとしたのは「葡萄」と「エンガワ」で、山梨県の名産である「葡萄」と、日本の特徴的な文化である「エンガワ」を用いて、子どもたちにとって良いものがないかと考えました。入選の通知を受け取ったときは、正直、目と耳を疑ってしまいました。驚きと共に喜びも同じくらい大きかったです。

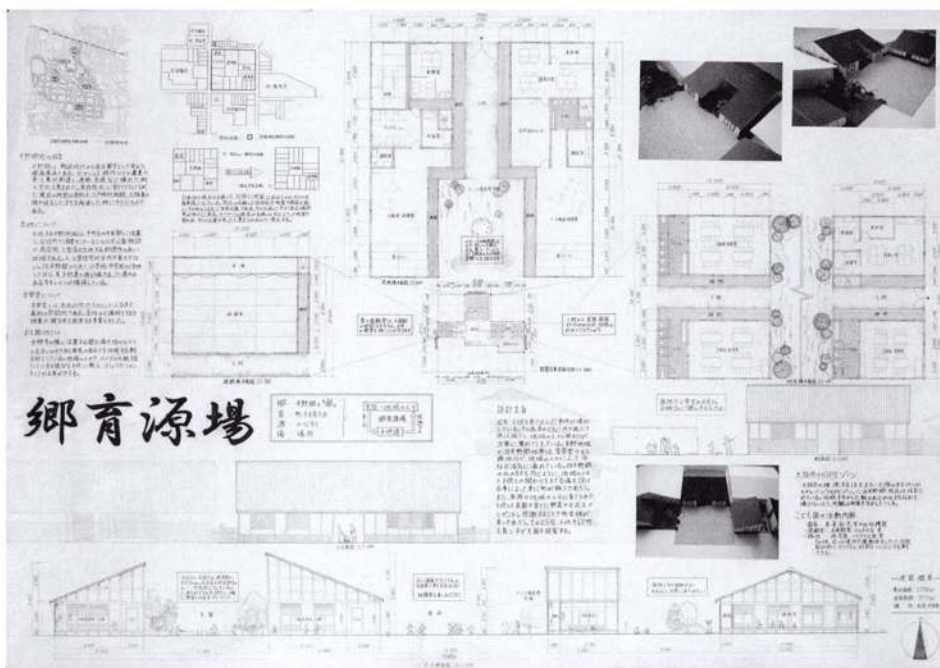
▶審査コメント／木村博昭

この作品は、こども園に相応しく、優しさに包まれた計画であり、生き生きとしたこどもたちが、ブドウの収穫を楽しみ、そして、このエンガワを走り回る様子がダイレクトに想像が出来る。狙いとするコンセプトが素直に具現化され、シンプルに纏められた好感もてる作品である。また、自然力に着眼し、建築形態の自然に即する決定方法は、大変説得力がある。しかしながら、ブドウ棚はここでは、まだそのイメージの域を出ず、この実現性の検討が必要である。



入選・優秀賞 白川いずみ・中澤 綾 山梨県立甲府工業高等学校 3年

入選・優秀賞 田中 侑 大阪市立工芸高等学校 3年



●審査記録

10月9日 予備審査：応募作品について応募規定違反の有無を調べ、その検討を行った。
(教育委員会・工高生教育小委員会)

10月20日 審査会：欠席の審査委員2名による事前審査と審査委員13名による当日審査。
(審査時間13:30~17:30)

●審査経過

審査を開始するにあたり、本年度の応募校、応募数の報告と、大きな違反がなかった旨の予備審査の報告があった。続いて審査委員長より、審査方針の確認があり、審査に入った。

■1次審査(審査委員13名、事前審査2名) 139作品→20作品
全応募作品について、審査委員1名が10作品を選んで投票し、当日欠席した審査委員の事前審査の投票を加え集計した。

得票	15	13	11	10	9	6	5	4	3	2	1	0
作品数	1	1	3	1	2	2	1	3	4	3	12	106

2次審査に向け、得票2及び3の7作品について審議した結果、得票2の作品から2点を、得票3の作品4点を2次審査対象作

品として含めることを決定し、合計20作品を1次審査通過とした。(審査時間13:50~16:15)

■2次審査(審査委員13名) 20作品→13作品

1次審査を通過した20作品について審議を行い、審査委員1名が3作品を選んで投票を行った。

得票	12	8	7	4	2	1	0
作品数	1	1	1	1	1	6	9

2票以上を得た5作品、1票を得た6作品をまず2次審査通過とした。続いて得票のなかった作品についての審議を行った。その結果2作品を加えることとし、合計13作品を2次審査通過とした。(審査時間16:15~16:40)

■3次審査(審査委員13名) 13作品→10作品

審査委員全員で2次審査を通過した13作品について審議し、まず、2次審査において得票数2票以上の5作品を入選とした。続いて得票数1票の6作品、得票のなかった2作品について審議し、その結果、得票数1の作品から3点、得票のなかった作品から2点を選び、合計10作品を入選とした。

(審査時間16:40~17:10)

前回に書く楽しさ、建築のおもしろさと深く考える探求心が芽生えるきっかけとなったので、次もこのコンクールに参加しようと思っていました。今回は授業の課題として取り組み、多くの先生方に指導していただきました。徹夜が続いたり、インターンシップ、受験と毎日が忙しく、泣きそうになったときもありましたが、あきらめずに取り組んで良かったと本当に思いました。これも先生方や多くの友人、そして家族の支えのお陰です。本当にありがとうございました。

◀審査コメント／長坂 大

評価対象は伝統的景観への配慮だが、その配慮を支えている手法のうち、私は特に敷地の再編構想を賞賛したい。「結果として不定形な敷地を利用した空間構成」という取り組みは、伝統的木造建築の作法とは無関係に成立するからだ。既存街区の部分的再構成、日本の都市空間整備において最も欠落しているもののひとつだろう。この作品において、中央部分に余計なつくり込みをせず、土の床にしておいたことは秀逸。

■4次審査(審査委員13名)

10作品→最優秀作品1点、優秀作品2点

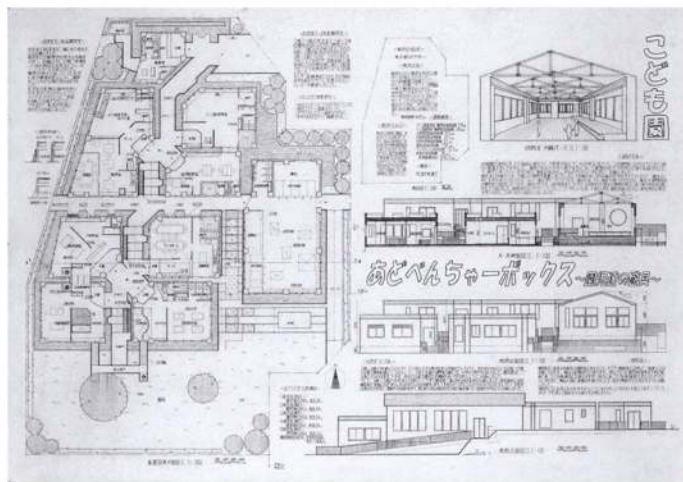
入選作品に決定した10作品を対象に審議を行い、まず、審査委員1名が1作品を選んで投票を行った。

得票	9	2	1	0
作品数	1	1	2	6

投票の結果、得票数9票の作品を最優秀賞と決定し、引き続き残りの9作品に対して審査委員1名が2作品を選んで投票を行った。

得票	8	4	3	1	0
作品数	2	1	1	3	2

投票の結果、得票数8票の2作品を優秀賞と決定した。入選作品について一人の審査委員が1作品について担当し、その評価を会誌「建築と社会」のコンクールでの紙面でまとめることを約束し、審査会を終了した。
(審査時間17:10~17:30)

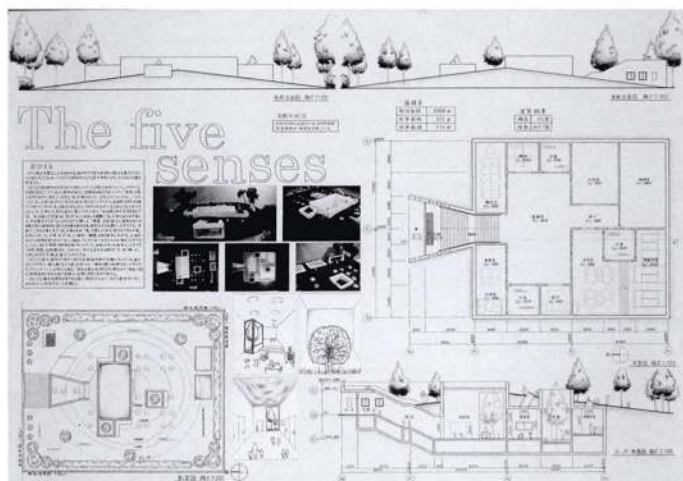


入選 **秋山一樹** 東京都立小石川工業高等学校 3年

2年生の時に中央工学校主催のコンペにチャレンジ奨励賞を、それをきっかけに3年生では課題研究でコンペ班に入り日本大学のコンペに取り組み優秀賞を受賞しました。さらに上位を目指して今回のコンペに参加しました。先生方から、日本建築協会のコンペは審査が厳しく難関だと聞いていたので、本心ではとても無理だと思っていただけに、入賞できて本当に光栄です。

◀審査コメント／田代 純

丹念に描かれた図面が印象に残った作品です。建物と建物、建物と敷地境界の隙間に着目した点も評価したいと思います。ただ、せっかく気付いた隙間空間の大切さや内外空間の関係を、美しく心地よい空間として建築的に昇華させていってほしかったと思います。細部にこだわりすぎ、内と外との関係を大きく捉えることが疎かになったのは残念です。建築のプランも、ちょっと離れて全体を眺めるゆとりをもってエスキスを練り上げると良いと思います。

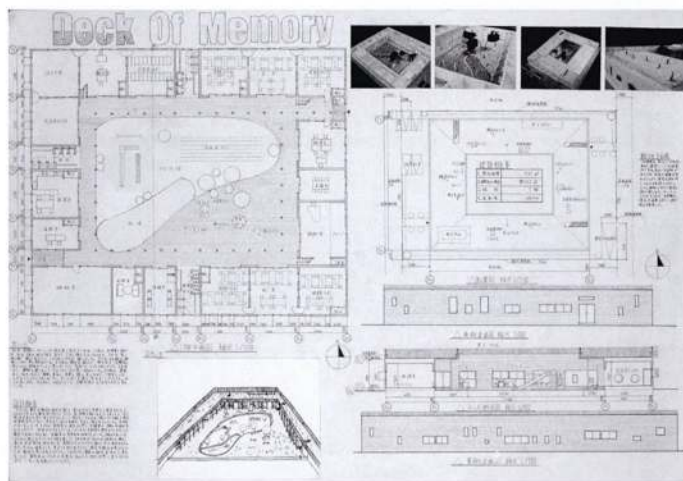


入選 **篠崎弥生** 静岡県立沼津工業高等学校 3年

私は、子どもが好きなので「こども園」というテーマに惹かれ、取り組みました。子どもたちが楽しく過ごせるように、五感を刺激する楽しいこども園を設計しました。3カ月間このコンペに取り組み、努力が報われたのでとても嬉しく思います。このコンペに取り組んで得たことを今後も生かしていきたいと思います。

◀審査コメント／渡辺豪秀

「土・光・風・水」をテーマとし、中庭や天窗を通して自然と交感する地下空間をベースに、屋上には地域にも開かれた緑の丘公園を提案。自然の移ろいを「五感」で体験し、子供たちの感性を豊かにする空間をつくり出そうとするアイデアは、都市環境に育つ子供たちへのメッセージとして、明快でわかりやすいコンセプトであり、評価された。

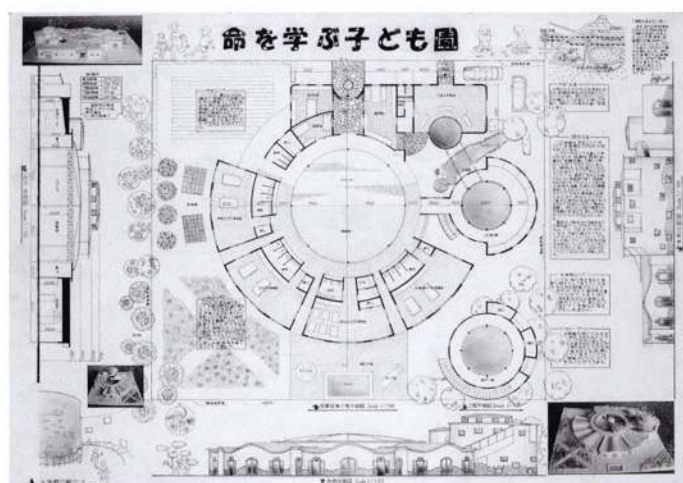


入選 **桑内正敏** 静岡県立沼津工業高等学校 3年

この作品は、私が子どものころ保育園で過ごした思い出をもとにして、様々な子どもたちが遊びながら友情や思い出をつくって成長してほしいと思い、デッキを中心とした空間を考えたものです。入選の通知を受けたとき、まさか入選するなんて思わなかったので、驚きました。また、今までの努力の成果が出てとても嬉しかったです。

◀審査コメント／久保清一

敷地外周を取り囲むように各室を連続させ、すべての室内から中庭のプレイグラウンドを見ることができるコートハウス型、というカパラッツオタイプの子供園であり、その開放的なプランが評価された。しかしながら中庭への開放感が良い反面、内部空間における各室の連続性に乏しく、単位空間化しすぎた点が気になった。地域との関連性や自由な内部空間の創出に、もう少しアイデアがあれば最高に良い作品となったと思う。



入選 **杉山輝明・村松伸彦・大高真吾**

静岡県立静岡工業高等学校 2年

小さいころを思い出すと、いろいろな遊びの中で楽しく過ごしたことが蘇ります。このこども園は、海の近くに設定して、水族館と野菜畑や花畑、どんぐり林など、命のあるものを身近に置き、成長過程や命の大切さを学べたらいいなと思い設計しました。2学期に入ってから取り組んだこともあり、最後の時間が足りなくて、持ち帰って家で仕上げたり、役割分担して模型を作ったりと忙しい日々でしたが、仕上げたときは充実感を味わうことができました。

◀審査コメント／徳岡浩二

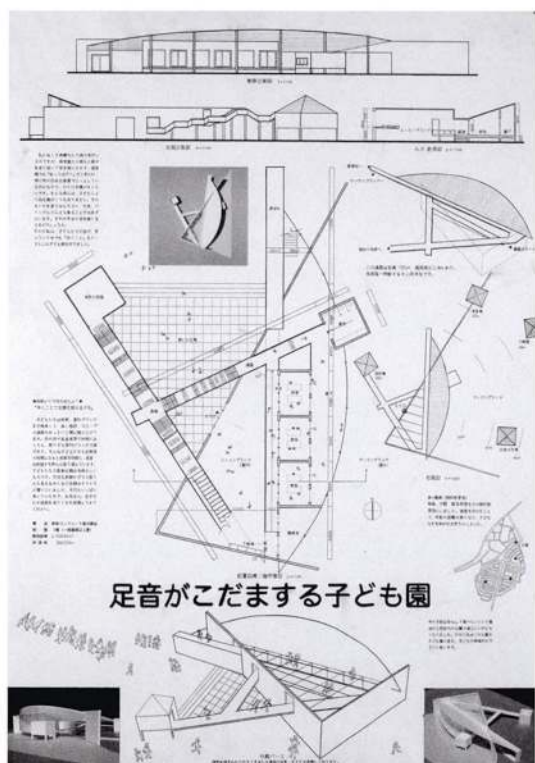
生命との触れ合いの空間を円形にまとめ、求心的にあるいは放射状に展開させ、中央の広場は、可動屋根により天候や季節に応じて内外が転換する。こんな空間なら、幼稚園嫌だった私でもきっと楽しく通えたことでしょう。一方、共同制作のためか、空間構成に安直さが感じられたのが残念でした。創作とは楽しくも孤独なものです。

入選 阿部航己・中込慎也
山梨県立甲府工業高等学校2年・1年

CADに頼りがちな普通のコンペに対し、手描き表現で作品を仕上げるという魅力と、歴史あるコンペということで挑戦しようと思いました。課題が「こども園」ということで子どもに教育する場がどうあるべきかを考え、自分が住んでいる地域をイメージして設計してみました。取り組み時間が非常に短く、大変厳しい状況でしたが、頑張ってきた甲斐がありました。このような賞を頂けたことを励みに、これからもいろいろなコンペに参加し、素晴らしい作品を作り上げたいと思います。

審査コメント／増田俊哉▶

こどもたちの生活空間と環境との共生を謳った設計趣旨が、施設を葡萄畑の地中に挿入することで明解に表現できた良案である。植物の生育とともに営まれる生活は、環境共生のこのうえない教材となろう。内容においては所要室の開口部が中庭に限られ、地上面にも確保することでの通風の確保、かつ、床の段差に配慮が欲しかった。



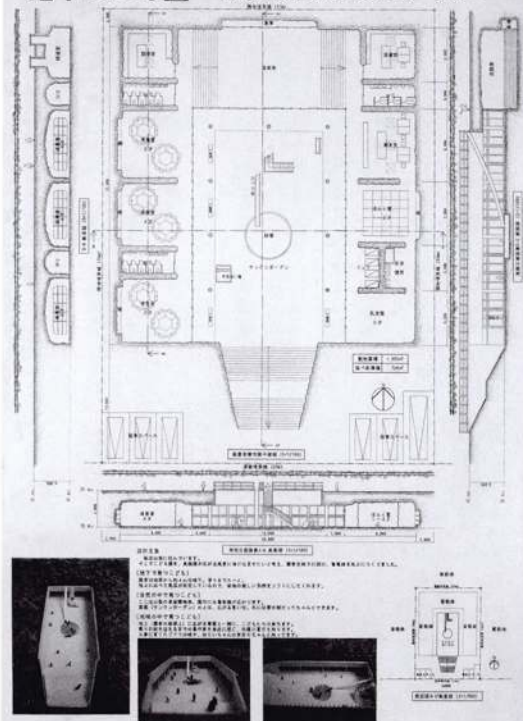
入選 公文麻裕 高知県立高知工業高等学校3年

2年生の時に県内のコンペに参加して、自分の考えを図面に表現できた楽しさをもう一度味わいたいと思い、今回取り組みました。「こども園」というテーマと出会い、自分の幼いころのことを思い出して、こんな園があったらいいなあと様々な想像が広がり、設計してみようと思いました。最後まで頑張ってやってきて良かったと思います。これもいろいろとアドバイスを下さった先生方のおかげだと思います。「都市での楽しみ」を評価していただき、ありがとうございました。

審査コメント／笹村欽也▶

課題に対するまじめな取り組みが評価された秀作である。この案に行き着くまでに数多くのスタディをしたのであろう。園庭と保育室を上手に配置、光や風を取り入れながら外部と内部の一体化を計る等、工夫が随所にみられる練られた作品である。ただ平面計画に比べ、断面・立面の未消化な点があった。この計画に注がれた姿勢があれば、今後さらに磨きのかかった作品が出来ると信じている。

地中こども園 ~葡萄畑の中のシンクンガーデン~

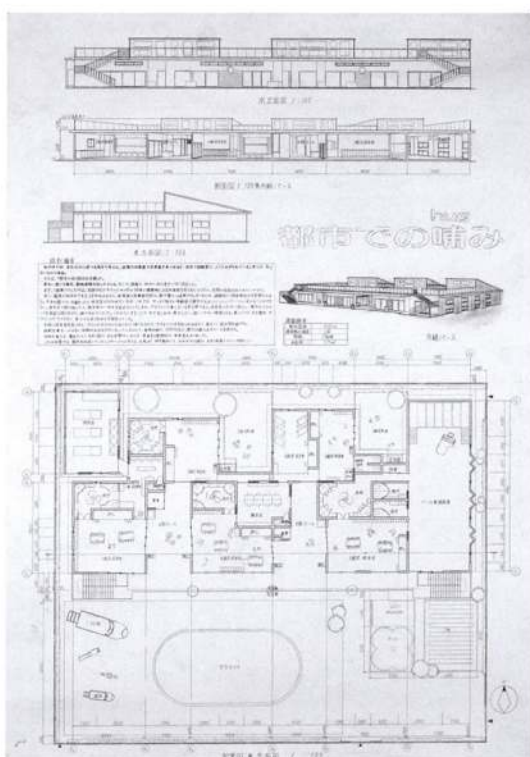


入選 東川裕紀 三重県立四日市工業高等学校3年

家で走り回る保育園児の弟にとって、じっとしていなければならない保育園はつまらないようです。そこで、保育園に教科教室型を取り入れ、教室までの通路を長くすることで、足音から楽しさが伝わるこども園を提案しました。初めての参加で、ついていくのがやっとなりましたが、描き上がったころには図面に愛着が湧き、手描きの面白さを感じました。入賞できたのは、周りの人たちの支えのおかげだと思います。

◀審査コメント／佐々木 栄

整った図面・造形的な模型・緻密なレイアウト構成、そして走り回る子供たちがイメージされる空間を提案した秀逸な作品でした。要項に満たない床面・所要室をはじめ別棟の空間、周囲との関連、レベル設定・機能面などの課題にまざる、建築への「思い」を感じました。



●応募学校

- ・北海道 旭川工業高校
- ・北海道 函館工業高校
- ・福島県立 会津工業高校
- ・東京工業大学 附属科学技術高校
- ・東京都立 蔵前工業高校
- ・東京都立 小石川工業高校
- ・川崎市立 川崎総合科学高校
- ・山梨県立 甲府工業高校
- ・山梨県立 富士北稜高校
- ・新潟県立 新潟工業高校
- ・長野県立 長野工業高校
- ・福井県立 武生工業高校
- ・静岡県立 静岡工業高校
- ・静岡県立 沼津工業高校
- ・名古屋市立 工芸高校
- ・私立 名古屋工業高校
- ・三重県立 四日市工業高校
- ・京都府立 宮津高校
- ・京都市立 伏見工業高校
- ・大阪府立 布施工業高校
- ・大阪市立 工芸高校
- ・大阪市立 都島工業高校
- ・堺市立 堺工業高校
- ・兵庫県立 兵庫工業高校
- ・鳥取県立 鳥取工業高校
- ・愛媛県立 松山工業高校
- ・高知県立 高知工業高校
- ・大分県立 鶴崎工業高校
- ・宮崎県立 小林工業高校
- ・宮崎県立 宮崎工業高校

入選者の感想
文は誌面の関係上、委員会にて要約の上、掲載しました。
文責・出雄 隆
／教育委員会

写真撮影
スタジオコムズ

理事会

第6回常任理事会

11月28日(水) 16:00~17:30

出席者 佐野会長ほか5名

- 議事 (1) 平成19年度収支予算執行状況について
(2) その他報告事項

常設委員会

常設委員長合同会議

11月28日(水) 17:30~19:00

出席者 設楽編集委員長/上原出版委員長/山形教育委員長/前川10年委員会副委員長

- 議事 (1) 本年度の事業計画及び事業の経過について
(2) 来年度各委員会事業の目標と課題について
(3) その他

編集委員会

第8回編集委員会

11月7日(水) 18:00~19:45

出席者 設楽委員長ほか5名

- 議事 (1) 12月号「楽しい構造の世界」特集の企画
(2) 1月号「私の空間作法—会員作品—」特集の企画
(3) 2月号「PFI事業、その後」特集の企画
(4) 3月号「東海支部」特集の企画報告
(5) 4月計画系特集の企画
(6) 5月号インテリア・住宅系特集の企画
(7) 6月号設備特集の企画
(8) 「中国支部」特集の企画
(9) 各小委員会・分科会の報告
(10) 常任理事会からの提案
(11) 来年の表紙デザイン
(12) 収支状況報告

第3回計画系分科会

11月13日(火) 19:00~21:00

出席者 三宅幹事ほか3名

- 議事 2008年4月号計画系特集の企画

第4回計画系分科会

11月29日(木) 19:00~22:00

出席者 三宅幹事ほか4名

- 議事 4月号計画系特集の企画

第1回インテリア・住宅系分科会

11月5日(月) 18:30~20:15

出席者 田中幹事ほか2名

- 議事 (1) 2008年5月号特集の企画
(2) インテリア・住宅系分科会の件

第8回構造分科会

11月2日(金) 18:00~20:00

出席者 房安幹事ほか4名

- 議事 (1) 12月号「楽しい構造の世界」特集原稿の査読
(2) 「構造の頁」の企画

第6回施工材料分科会

11月13日(火) 17:00~18:00

出席者 藤丸幹事ほか3名

- 議事 (1) 11月号特集の反省
(2) その他

第8回法令分科会

11月6日(火) 15:00~16:00

出席者 片岡幹事ほか3名

- 議事 (1) 「法令コーナー」の企画
(2) 来年の法令特集
(3) 情報交換

第8回作品作風小委員会

11月22日(木) 19:00~20:00

出席者 井上副委員長ほか7名

- 議事 (1) 作品の選定
(2) 作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
(3) 「gallery」掲載報告・予定
(4) その他

第8回広告企画小委員会

11月7日(水) 16:00~17:30

出席者 設楽委員長ほか4名

- 議事 (1) 12月号「楽しい構造の世界」特集の企画
(2) 1月号「私の空間作法—会員作品—」特集の企画
(3) 広告頁「第一線の建築設計担当者に聞く いち押し建材・設備」シリーズの企画
(4) 広告掲載状況
(5) 収支状況報告
(6) 2月号「PFI事業、その後」特集の企画

第7回10年委員会

11月15日(木) 19:30~21:00

出席者 前川副委員長ほか3名

- 議事 (1) アンケートの文案
(2) コンベについて
(3) その他

事業委員会

第5回情報見学小委員会

11月8日(木) 18:00~19:10

出席者 瀬戸川委員長ほか9名

- 議事 (1) 西九条中高教育一貫校について
(2) 甲子園会館について
(3) 来年度事業案について
(4) その他

出版委員会

第7回出版委員会

11月15日(木) 18:00~19:15

場所 和彩厨房KATURA

出席者 上原委員長ほか10名

- 議事 (1) 「プロのノウハウ」と特装本の経過報告
(2) 進行中のテーマについて
(3) その他

教育委員会

第53回工高生デザインコンクール表彰式

11月10日(土) 14:00~16:00

場所 OMMビル2階1号室

出席者 受賞者10名(同伴7名)

審査員 林浩二 審査委員長ほか2名

委員 山形教育委員長ほか4名

第2回工高生教育小委員会

11月30日(金) 18:00~19:00

出席者 和田副委員長ほか7名

- 議事 (1) 第53回工高生デザインコンクール実施報告
(2) 次年度第54回工高生デザインコンクール募集規定の件
(3) その他

建材委員会

第3回建材委員会

11月16日(金) 17:00~18:00

出席者 松原委員長ほか4名

- 議事 (1) 新建材検討会
(2) その他

●訃報

〔個人正会員〕葉袋 公明氏
平成19年11月24日逝去 享年80歳



工高生デザインコンクール審査風景



工高生デザインコンクール表彰式を終えて

住宅エクステリアの 100ポイント

技術者必携！

A5判・232頁

定価2625円（本体2500円）

計画・設計・施工・メンテナンス

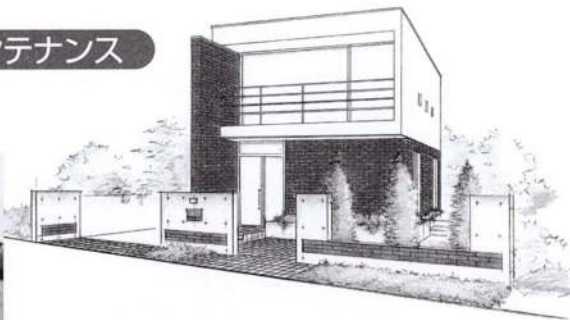
藤山 宏 著

Hiroshi FUJIYAMA

企画・日本建築協会

contents

- 第1章 エクステリア計画前の予備知識
- 第2章 エクステリア計画の全体概要
- 第3章 エクステリア計画に必要な法的知識
- 第4章 ゾーニングからプラン作成
- 第5章 門廻りの設計
- 第6章 階段・アプローチの設計
- 第7章 塀・外柵・擁壁（土留）の設計
- 第8章 カースペース・ヤードスペースの設計
- 第9章 エクステリア計画における効果的な
緑（植栽）の設計施工
- 第10章 施工
- 第11章 メンテナンス



成長するエクステリア業界の
技術者に求められる広範な知識・考え方を
体系的に整理した初めての書

学芸出版社 〒600-8216 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
tel 075-343-0811 fax 075-343-0810
<http://www.gakugei-pub.jp/> E-mail info@gakugei-pub.jp

（プロのノウハウ） 企画・日本建築協会

現場で学ぶ

住まいの 雨仕舞い



玉水新吾 著

TAMAMIZU Shingo

定価2100円（本体2000円）

四六判・224頁 ISBN4-7615-2390-5

〈本書の内容〉

- 序 雨が漏る前に
- 第1章 住宅の雨漏りとは
- 第2章 雨漏りの要因
- 第3章 雨漏りの事例（屋根～軒先編）
- 第4章 雨漏りの事例（外壁編）
- 第5章 雨漏りの事例（バルコニー編）
- 第6章 雨漏りさせないために

雨漏り事例をもとに説く
トラブルのない家づくり

学芸出版社 〒600-8216 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
tel 075-343-0811 fax 075-343-0810
<http://www.gakugei-pub.jp/> E-mail info@gakugei-pub.jp

キッチンはいきたいところに置きましょう。



好きな場所に置けるキッチン。
サンウエーブのスタイルキッチン。

スタイルキッチンは、Switch! the design projectの一環として、東京電力、三菱電機、サンウエーブが共同開発したオール電化住宅用キッチン。レンジフードの代わりにIH用空気清浄システムを使って、好きな場所にキッチンをおけるようになりました。リビングの真ん中でも、壁一面の窓の前でも、家具みたいに自由に置いてください。食事のスタイルも、暮らしのスタイルも、きっとここから新しくなります。

Switch!
the design project



ショールームやカタログで、「スタイルキッチン」を実感してください。

くわしくは、☎ 0120-1905-21 または、🌐 www.sunwave.co.jp

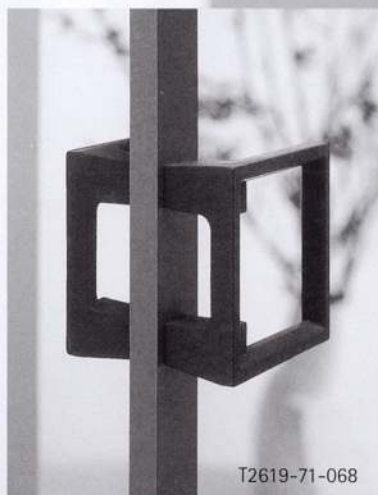
※PHS・IP電話等でつながらない場合は、恐れ入りますが03-5283-8760におかけください。 ※ホームページは **サンウエーブ** **検索** で検索できます。
札幌 011-856-6618・仙台 022-218-3320・盛岡 019-635-3131・新宿 03-3370-7150・立川 042-535-3894・横浜 045-681-1490・厚木 046-221-8167・千葉 043-266-4510・さいたま 048-663-1124・宇都宮 028-632-3271・新潟 025-243-5256・長野 026-227-1887・名古屋 052-788-7851・金沢 076-224-6255・静岡 054-264-7407・大阪 06-6251-8276・京都 075-312-3401・神戸 078-361-3220・広島 082-832-5277・岡山 086-243-4460・高松 087-867-5953・福岡 092-472-6939・鹿児島 099-254-9807 ※スタイルキッチンの展示は一部ショールームのみとなります。また、営業日、営業時間はショールームにより異なりますので、事前にご確認の上お出掛けください。

サンウエーブ工業株式会社 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-6-10



T2719/T2619 Door Handle
Japanese Cast Iron Products

空間の雰囲気を高める
磨き抜かれたデザイン



T2719-71-207

T2619-71-068

UNION

建築文化を創造する
株式会社 **ユニオン**

ITEM

[アーキズム シリーズ]

建築用ドアハンドル

ロマンテ

レバーハンドル

消火器収納ケース アルジャン

ドアストップ エッセ

ユニフリード

キャスター + メタルアート

ケアシステム ハンドバー

フロアシステム

サインシステム ビット

視覚誘導点字版 ナビライン

都市景観 ヒューランドスケープ

[モデライズ シリーズ]

ユニアート

クロセット

[セキュリティ シリーズ]

オフィス用セキュリティ錠 オートロックケアガード

リモコン式ドア施錠システム ケアガード

血流認証装置 ユニガード

ISO
9001

ISO
14001

www.artunion.co.jp

本社
〒550-0015
大阪市西区南堀江2-13-22

大阪支店
〒550-0015
大阪市西区南堀江2-13-22
tel 06-6532-3731
fax 06-6533-2293

東京支店
〒135-0021
東京都江東区白河2-9-5
tel 03-3630-2811
fax 03-3630-2816

名古屋営業所・ショールーム
〒454-0805
名古屋市中川区舟戸町3-20
tel 052-363-5221
fax 052-363-5255

上海事務所
Room 305, 555 Building,
555 Nanjing Road West,
Shanghai 200041 PRC
tel +86-21-52130430
fax +86-21-52130431

北京事務所
Room 1903, Dongyu Building,
A Shuguang (W)A1,
Caoyang Area Beijing 100028 PRC
tel +86-10-58220780
fax +86-10-58220779

アトリエユニオン／東京
〒103-0022
東京都中央区日本橋室町4-5-1
tel 03-3517-1818
fax 03-3517-1819

アトリエユニオン／大阪
〒550-0015
大阪市西区南堀江2-13-22
tel 06-6532-8920
fax 06-6533-0224

煙突工事 ハイスタック
 気密ドア マーカススライディングドア
 セミエアタイトドア フジパスカル
 中空スラブ サイレントFS ボイドスラブ、打込みサイレントボイドスラブ
 保有技術 ビル風シミュレーション解析・診断

fujimori フジモリ産業株式会社

541-0051 大阪府中央区備後町 3-4-1(山口玄ビル)

TEL:06-6228-3863 FAX:06-6228-3875

Home Page : <http://www.fujimori.co.jp>

多彩な建築に先進技術で応える、建材の総合メーカー。



NISC(ニスク)とお呼び下さい!!

日鉄住金鋼板株式会社

ホームページアドレス <http://www.nisc-s.co.jp/>

塗装鋼板

タイマフロンGL
耐摩カラ-GL
スーパーサンフロンGL
エスフロン遮熱GL

パネル建材

イソバンド・イソタック

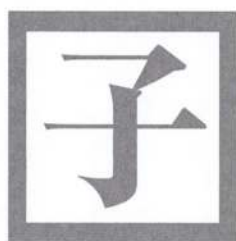
防火・耐火エスガード

本 社 〒103-0027 東京都中央区日本橋2-7-9 大手町建物日本橋ビル TEL 03-3548-6420(代) FAX 03-3548-6498

大阪支社 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島3-2-4 大阪朝日ビル TEL 06-6228-8330(代) FAX 06-6228-8506

支店/東北・名古屋・九州 営業所/札幌・北陸・中国

謹賀新年



平成20年元旦

浅沼 誠夫

株式会社 浅沼組
会長

〒543-8688 大阪市天王寺区東高津町12-6 TEL(06) 6768-5222

設楽 貞樹

株式会社 安井建築設計事務所
常務取締役

〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL(06) 6943-1371代

沼田 亘

株式会社 昭和設計
代表取締役社長

〒552-0007 大阪市港区弁天1-2-1-800 TEL(06) 6575-5555

名誉会長

市川 宏

株式会社 東畑建築事務所
取締役相談役

〒541-0044 大阪市中央区伏見町4-4-10 TEL(06) 6202-0391

菅谷 節

ダイダシ 株式会社
代表取締役会長

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-9-25 TEL(06) 6441-8231

林 新一

社団法人 日本建築協会
常務理事兼事務局長

〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 TEL(06) 6946-6981

岡本 慶一

日建設計
代表取締役社長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4-6-2 TEL(06) 6203-2361

銭高 一善

銭高組
社長

〒550-0005 大阪市西区西本町2-2-11
なにわ筋ツインズ ウエスト
TEL(06) 6538-7801

原 眞一

コーナン建設 株式会社
代表取締役

〒531-0075 大阪市北区大淀南1-9-10号 TEL(06) 6456-4311

嘉納 秀一

三宝電機 株式会社
代表取締役社長

〒530-0047 大阪市北区西天満2-6-8 堂ビル
TEL(06) 6364-1471

立成 良三

財団法人 大阪住宅センター
理事長

〒542-0081 大阪市中央区南船場4-4-3
御堂筋アーバンライフビル4F
TEL(06) 6253-0071 FAX(06) 6253-0145

藤井 實

エスケー化研 株式会社
代表取締役社長

〒567-0034 茨木市中穂積3-5-25 TEL(072) 621-7720

名誉会長

佐野 正一

株式会社 安井建築設計事務所
代表取締役相談役

〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL(06) 6943-1371代

谷 淳之介

株式会社 東畑建築事務所
代表取締役社長

〒541-0044 大阪市中央区伏見町4-4-10 TEL(06) 6202-0391

古元 眞美

株式会社 シブタニ
代表取締役会長

〒542-0082 大阪市中央区島之内2-13-7 TEL(06) 6211-7335

会長

佐野 吉彦

株式会社 安井建築設計事務所
代表取締役社長

〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL(06) 6943-1371代

副会長

中井 進

日建設計
常務執行役員

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4-6-2 TEL(06) 6203-2361

宮本 博司

株式会社 宮本工務設計事務所
代表取締役
ISO9001認証取得 (創立62年)

〒665-0022 宝塚市野上1-2-34 (宮本ビル)
TEL(0797) 71-0431 (代) FAX(0797) 71-5139 (受)
E-mail: mto@gold.ocn.ne.jp URL: http://宮本設計.jp.io
神戸支店 TEL&FAX(078) 997-0371

村 石 全

株式会社 クトクコーポレーション
代表取締役社長

〒556-0021 大阪市浪速区幸町2-5-3 TEL (06) 6568-3671
〒596-0011 工場・岸和田市木材町9-3 TEL (0724) 37-2524
〒649-7167 工場・和歌山県伊都郡かつらぎ町移430番地
TEL (0736) 22-7880

森 悠

西日本建設業保証 株式会社
取締役社長

〒550-0012 大阪市西区立売堀2-1-2 TEL (06) 6543-2553

森 田 司 郎

財団法人 日本建築総合試験所
理事長

〒565-0873 吹田市藤白台5-8-1 TEL (06) 6872-0391
<http://www.gbrc.or.jp>

山 本 貴 士

朝陽電気 株式会社
代表取締役

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 朝日ビルディング内
TEL (06) 6385-1361 代表
〒565-0873 自宅・吹田市藤白台4-23-8 TEL (06) 6871-0851

和 中 勝

株式会社 和中商店
取締役相談役

〒531-0072 大阪市北区豊崎5-8-11 TEL (06) 6371-0731~5
〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町11-5 TEL (03) 3464-9723
〒453-0804 名古屋市千村区黄金通3-34 TEL (052) 481-7338
〒662-0836 自宅・西宮市大畑町10-22 TEL (0798) 67-0386



謹賀新年



平成20年元旦

設計事務所有志

株式会社 伊東建築設計事務所

代表取締役 岡 本 清 彦

〒556-0016 大阪市浪速区元町1-5-7 TEL 大阪 (06) 6646-0161(代)

株式会社 伊藤建築設計事務所

代表取締役会長 織 田 愈 史

代表取締役社長 森 口 雅 文

本社・名古屋事務所 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-15-15 (桜通ビル) TEL (052) 222-8611

東京事務所 〒101-0021 東京都千代田区外神田3-5-12 (聖公会神田ビル) TEL (03) 5294-6211

株式会社 瀬戸本淳建築研究室 ISO9001

代表取締役 瀬 戸 本 淳

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-1-1 神戸郵船ビル TEL (078) 333-0138

<http://www.jsao.co.jp>

株式会社 東畑建築事務所

代表取締役社長 谷 淳 之 介

本社・大阪事務所 〒541-0044 大阪市中伏見町4-4-10 TEL (06) 6202-0391

<http://www.tohata.co.jp>

大阪・東京・名古屋・九州

日建設計

代表取締役社長 岡 本 慶 一

東 京	102-8117	東京都千代田区飯田橋2-18-3	TEL (03) 5226-3030
大 阪	541-8528	大阪市中伏見町4-4-10	TEL (06) 6203-2361
名 古 屋	460-0008	名古屋市中区栄4-15-32	TEL (052) 261-6131

安井建築設計事務所

代表取締役社長 佐野 吉彦

本社 〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL (06) 6943-1371 (代表)
支社 大阪・東京・名古屋・広島・九州 <http://www.yasui-archi.co.jp/>

建設業有志



株式会社 浅沼組

代表取締役社長 浅沼 健一

本社・大阪本店 大阪市天王寺区東高津町12-6 TEL (06) 6768-5222
東京本店 東京都新宿区荒木町5 TEL (03) 5269-3111
名古屋支店 名古屋市中村区名駅南3-3-44 TEL (052) 571-5571
支店 北海道・東北・北関東・横浜・神戸・広島・九州

100年をつくる会社

鹿島
KAJIMA CORPORATION

本社：東京都港区元赤坂1丁目3番1号
関西支店：大阪市中央区城見二丁目2番22号・マルイトOBPビル
電話06 (6946) 3311

<http://www.kajima.co.jp/>

清水建設株式会社

i Life
Cycle
Valuation

取締役社長 宮本 洋一 専務執行役員関西事業本部長 小橋 鴻三

本社 〒105-8007 東京都港区芝浦一丁目2番3号 シーバンスS館 Tel. 03 (5441) 1111
関西事業本部 〒541-8520 大阪市中央区本町三丁目5番7号 御堂筋本町ビル Tel. 06 (6263) 2800
<http://www.shimz.co.jp>



大地への愛 人間への愛

銭高組
社長 銭高一善

本店 大阪市西区西本町2-2-11
なにわ筋ツインズ ウエスト
TEL (06) 6531-6431
本社 東京都千代田区一番町31番地
TEL (03) 3265-4611
支社・支店 大阪・東京・北海道・東北・北関東・千葉
横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・九州
URL <http://www.zenitaka.co.jp/>



地図に残る仕事。
大成建設株式会社

社長 葉山 莞児
常務取締役 寺下 均
関西支店長

<http://www.aisei.co.jp/>



株式会社 竹中工務店

取締役社長 竹中 統一

〒541-0053 大阪市中央区本町4-1-13 TEL(06)6252-1201(代表)



戸田建設株式会社

代表取締役社長 井上 舜三
常務執行役員 野村 昇
大阪支店長

本社 〒104-8388 東京都中央区京橋1-7-1 TEL 東京03(3535)1354
大阪支店 〒550-0005 大阪市西区西本町1-13-47 TEL 大阪06(6531)6095
支店 東京・千葉・関東・横浜・北陸・名古屋・札幌・東北・広島・四国・九州

保存と開発に
取り組む



yasui moku

総合建設業
株式会社 安井 空工務店

代表取締役社長 安井 洋

本社 〒617-0006 京都府向日市上植野町御塔道42 TEL(075)933-0012(代) FAX(075)933-4931
東京事務所 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-1-10 赤坂ビルディング303号室 TEL(03)5474-3671 FAX(03)5474-3672
<http://www.yasuimoku.co.jp/> E-mail:soumubu@yasuimoku.co.jp

建材・報道・学校・団体有志等



For Precious Life

株式会社 INAX 関西統括支社

取締役常務執行役員支社長 加藤 和久

[新住所] 〒550-0013 大阪市西区新町1-7-1 INAX大阪ビル
電話06-6539-3500(代表)

INAXホームページ・アドレス <http://www.inax.co.jp/>

※2008年1月7日より新住所地に移転いたしました。

カーペットタイル各種
ファッション床材
特殊用途床材
プラスチック汎用床材
銅製 } 二重床
プラスチック }

TAJIMA

株式会社 タジマ

大阪営業所 550-0003 大阪市西区京町堀1-8-5 明星ビル1F
東京営業所 101-8577 東京都千代田区岩本町3-11-13
神戸営業所 657-0025 神戸市中央区御幸通2-1-18 建徳ビル201
地方営業所(西日本) 広島・高松・福岡・鹿児島

06-6411-5951
03-5821-7731
078-241-2172



ネットワーク型
指紋入室管理システム
VIRDI 500FP
ワンタッチでスマート認証!
指をセンサー部に置くだけの簡単操作

スマートで美しいタフネスドアロック!

指紋認証デジタルドアロック

VIRDI 430FP

アシバネ
指紋認証
シリーズ



安田株式会社

〒542-0081 大阪市中央区南船場1-11-9(長堀安田ビル7F)
TEL 06-6251-7091(代) FAX 06-6262-3629
URL <http://www.ashibane.co.jp/>

札幌 TEL 011-781-1236 関東 TEL 048-795-2351
西関東 TEL 03-5858-0271 東京 TEL 03-5858-0271
名古屋 TEL 0587-95-4501 大阪 TEL 06-6268-3531
福岡 TEL 092-504-2031

1955年創業



株式
会社

建設日報社

社主 重村 一

本社 ☎550-0006 大阪市西区江之子島1-7-3 TEL (06) 6444-2405-9
別館 ☎550-0006 大阪市西区江之子島1-6-2 TEL (06) 6444-6431-4

建築 インテリア 大工 設備 土木 環境 ロボット 機械

モノづくりの学校
大阪工業技術専門学校 SINCE 1895



大阪市北区天満1-9-27 〒530-0043
☎ 0120-0910-19 FAX (06) 6352-2861
URL <http://www.oct.ac.jp>



建築図書専門店

有限会社 柳々堂

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-12-3
TEL (06) 6443-0167 FAX (06) 6443-1826
E-mail ryuryudo@osk4.3web.ne.jp
URL <http://www4.osk.3web.ne.jp/~ryuryudo>



社団法人

日本建築材料協会

会長 藤井 實

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-3-13 辰巳ビル9階 TEL (06) 6443-0345 FAX (06) 6443-0348
<http://www.kenzai.or.jp/>



社団法人 日本建築協会京都支部

支 部 長 望 月 秀 祐

〒604-0944 京都市中京区押小路通柳馬場東入 京都建設会館別館 TEL(075)211-2857-2877



社団法人 日本建築協会中国支部

支 部 長 森 畑 徹 武

〒730-0042 広島市中区国泰寺町1-8-4日興ビル内 TEL(082)244-2111



社団法人 日本建築協会東海支部

支 部 長 佐 伯 壮 博

〒460-0008 名古屋市中区栄4-3-26 (昭和ビル5階) TEL(052)261-1451



社団法人 日本建築協会和歌山支部

支 部 長 東 野 信 義

〒640-8045 和歌山市卜半町38番地 建築士会館内 TEL(073)423-2562

空調・衛生・クリーンルーム設備
(設計・施工)



本社・本店 東京都港区浜松町1-25-7 電話03(3432)5711
大阪支社 大阪市淀川区加島1-58-59 電話06(6302)2270
支店 北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

OKUJU
Space Creator

クオリティ&コストパフォーマンス

ALTSシステム
スナップ工法

SP-600

メタルシステム天井

内外装製作パネル・システム天井・間仕切り

株式会社 オクジュ

本社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530-0047
TEL(06)6312-4131 FAX(06)6312-7998
東京・九州・南九州・名古屋・上海

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設計施工



本店・大阪本社 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号 電話(06)6441-8231
東京本社 〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号 電話(03)3261-8231
支店 名古屋・福岡
札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・
広島・高松・熊本
営業所 帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・
福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所 旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店 シンガポール・ホンコン
技術研究所 〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地 電話(0492)58-1511

CHOYO

人かいる多彩なフィールドで、
新しい眼界に挑戦しています。

電気設備設計施工

朝陽電気株式会社

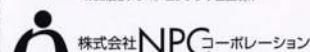
代表取締役 山本貴士

本社 〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代) FAX 06(6385)1050



We have hope

■印刷事業 ポスター、カタログ、パンフレット、書籍、年鑑、社史、
雑誌、文庫、画像データ処理
■メディア事業 SPプランニング、コンサルティング、ITソリューション、
web及びメディアコンテンツ企画制作



株式会社 NPGコーポレーション
本社 〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19
tel: (06) 6351-7271(代) fax: (06) 6352-7479
第二ビル 〒530-0043 大阪市北区天満1-11-8
tel: (06) 6351-0128(代) fax: (06) 6351-0208
東京支社 〒105-0004 東京都港区浜松町1-2-1
一光浜松町ビル7F
tel: (03) 3433-5211 fax: (03) 5776-7733
(旧社名ナニワ印刷機、日本データネット株)

地球環境を守り、100年建築に貢献する

NACL のアルミ表面処理

株式会社日本電気化学工業所

http://nacl.jp E-mail:sc@nacl.co.jp

本部営業部 〒560-0036 大阪府豊中市蛍池西町2丁目7番26号 NACLビル2階

TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1632

東京事務所 〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目7-2 東京NACLビル

TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

デンカCSAファミリー製品

- デンカCSA (膨張性混和材)
- デンカタスコン (グラウト用無収縮材)
- デンカキューテック (止水・補修用急硬セメント)
- デンカES (土質安定用急硬材)
- デンカΣ1000 (製品用超高度混和材)

コンクリートのひびわれ防止に
鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
コンクリート躯体の漏水補修に
地盤補強用薬注入
コンクリートパイルの早期出荷と
ハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社

近畿地区販売店

浜宗産業株式会社

TEL 本社・京都・京丹後 (0772) 72-2220
舞鶴 (0773) 76-0133

金森藤平商事株式会社

TEL 大阪 (06) 6332-6861
TEL 東京 (03) 3272-8501

小浦産業株式会社

TEL 大阪 (06) 6443-6181

光洋物産株式会社

TEL 大阪 (06) 6252-6000

東郷化成株式会社

TEL 滋賀・守山 (0775) 83-2381
TEL 大阪 (06) 6877-1581

moritec INT'L

Open the グローバル。

メタルワークの
限らない
可能性に
チャレンジする。

ドアから
始まる
快適未来。



モリテック・インターナショナルの新しい顔、「モリテックロボ」いよいよ始動。詳しくはWEBをCHECK!

<http://www.moritec-intl.com/>

株式会社モリテック・インターナショナル 〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町15番15号ルネ小舟町ビル
本社/東京 国内拠点/名古屋・大阪・横浜・福岡・仙台 海外拠点/上海・無錫・北京・広州・天津・香港・トロント